拾遺都名所圖會

前朱雀

茶染屋月錄

城南神社
大日堂
御所内
竹田里　真幡寸辻
國分寺
下鳥羽里
鴨川曝
赤井谷原
達磨堂　長の松
上津屋　午頭天王
淀堤
龍雲寺　宇治圀
苅萱堂
鳥羽殉死
竹田街道　牛車
西芳寺
石茶師
久我神社　久我社　八幡宮
樋爪渡口
水無瀬　離宮
川口天神
御牧八幡宮
天武帝社
廣元寺
鳥羽
戀塚
成菩提院陵
近衛院陵
九品寺跡
久我畷
撲大路渡口
淀城　大橋　大渡
橋本
一口
善福寺　上三柄
桃山天滿宮
茶師堂
常念寺
勝光明院跡
竹田山王　禅師祠　猿塚
亀井茶師
御所屋敷　本浦寺
愛宕祠
八幡山　十二景
内里王塚
御園原
伏見皇居
立賣　苑地

伊澤

常盤井
住吉社
觀音寺
大黒寺 天神社
森住吉
念佛寺
有馬稲荷
往蓮庵
淵里園店
嘉祥寺聖天
眞宗院
善福寺
谷口
霧谷
伏見陵
東本願寺懸所
大光明寺 茶毘堂
西方寺
明壽院
猿本町天滿宮
玄蕃町神明
了峰寺
道澄寺
仁明帝陵
霞谷
猿丸太夫墳
根武天皇陵
海寶寺 天滿宮
指月 豊後橋向の岸
池懸西岸寺
本教寺
聖恩寺
光照寺
白菊井
正覺寺
西岸寺
常安寺
安樂行院御廟
履皇
鎮守松
車塚
西福寺
中書嶋辨天社
源空寺
金札宮
西本願寺懸所 勝軍地蔵
寶國寺 觀音堂
蚯子社 茶毘院
墨染櫻
西休寺
石峯寺五百羅漢
法華堂
良觀寺
女御良子墓
栂原野
昇成就院

隆閑寺
天王山
田中社
金岡宅
普化墓
頓阿庵
平等院 補遺
宇治田原
眞言院
栗林
巨椋神社
椙本八幡 武内祠 放生川 神牛石
久世神社
富野大神
八科峠
金ケ辻
願行寺
木幡川
淀舟宮
兎道里 宇治橋
木幡關守屋舗
淨妙寺跡
濱茶師
五箇庄
玉靖石
朝日山
釣月
八幡宮
龍安寺
向山 権現 金色淀
栗隈大神
興聖塔婆
鷺坂 小篠岑
白鳥釋迦
等泉寺
木幡神社
不燒地藏
苗鹿山 補遺
三室戸山
喜撰嶽
栗子山 神明宮
三宮
善福寺
巨椋堤
七ツ塚
指月塚
長池沼 干ゑれ
椎尾山 同嶽



市野辺梵天
井出山風穴 下馬石 有王芝
神童子祇
普賢寺溪
下狗若一王子
土師
誉預寺
上狗里 御霊社
泉橋寺
瓶原離宮 清見泊
岡田山
笠置山名石細圖
稲竈

玉水井 蛙岡松山名所 井出寺跡
藪ろろ
薪 神南松山 茅師堂
段々良都谷 白石権現
藏岡山大神
相樂
動觀音 荒神石
椿井寺辨天 觀音堂 國分寺
西村 竹笑社
加茂ろろ
加茂社
笠置皇居旧蹟 鞠山小男山夜討道

井堤左倉旧趾 井出
光明山寺跡
大神森
草内ろろ
稲八間武内祠
木津川 樺井ろろ
木津 市辻 春日社 念佛石 あこぎ柳
鯉奥石
井平尾茶切石
法善寺野
東明寺

玉川水車
鳥居里
興戸酒屋祠 郡塚
飯岡
祝園春日社 大塚
大智寺
椿井里 松尾社
加納山不動
浄瑠璃寺 郭公旧跡
栗柄大滿宮
兒灘


上鳥羽
城南神社
さく
多羽乃
田面や
寒の雨
七世残


本社

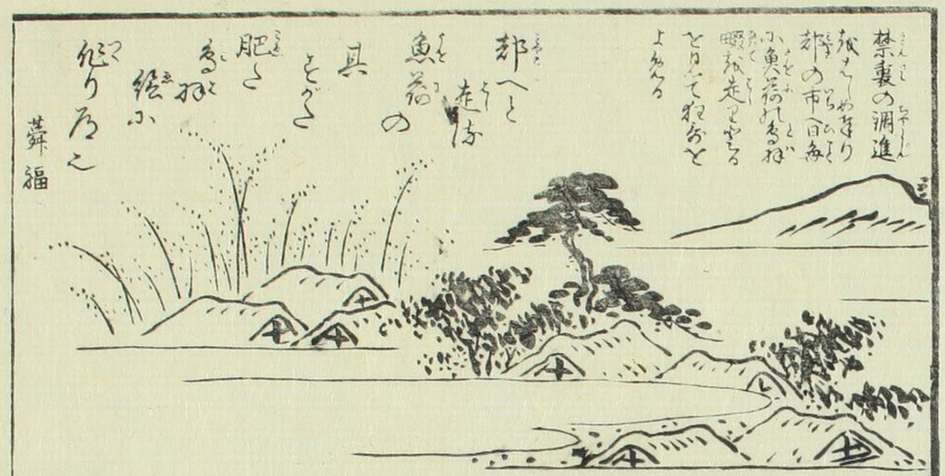
鳥羽
作り道



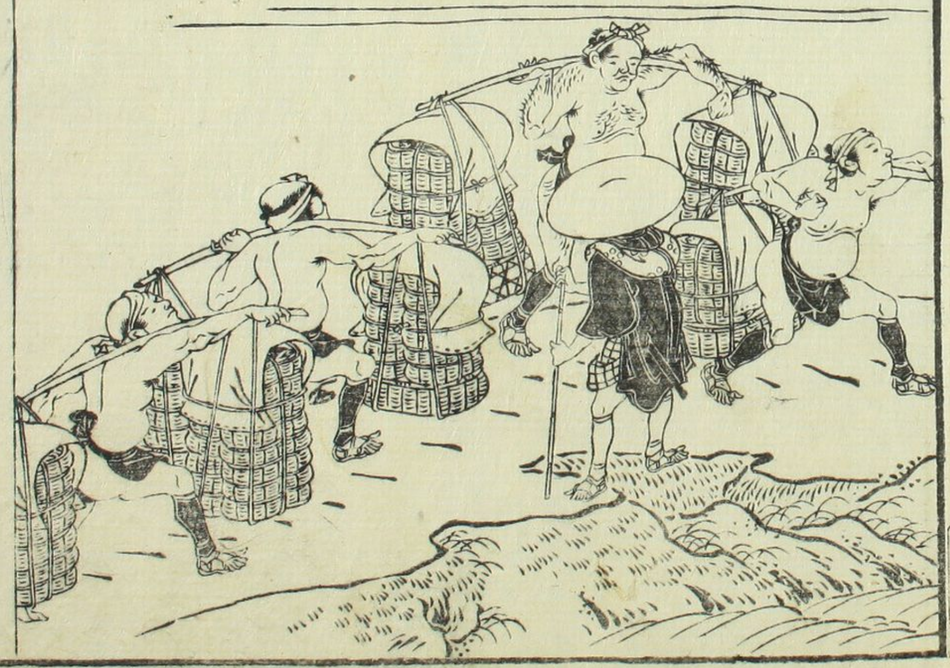


禁裏の洞進
院さまより
都の市日毎
小魚ども売れるのね
暇あれば走ってやる
とおっておねえと
よろころ

都へと
走る
魚荷の
具を
ごと
肥さ
るね
絵ふ
作りろこ



蕣福



鳥羽 洛外にて四ツ塚より南七町ばかり上鳥羽の村にて民居あり
○鳥路 四塚より鳥羽へ至る今の道路 道傍に一堆高き細塚あり古老の伝へ説を聞くに
徒然草曰
鳥羽の僧正が許へ遣はしける文に
元良親王の
道もなく深き雪を分け入りて
誰おわすかと問はましかば
續後撰 雲井寺 寺の北に厳山あり 坂上是則
新續古 白雲のたえまをわけて尋ねきて
今日ぞ知りぬ深き心を
苅萱堂 道心庵空法師の草庵 上鳥羽村 草庵町西側
野山 嵯峨 舊跡 高野山 寂光院 本尊阿弥陀佛 坐像
天文十一年十二月二日本堂厨子 時燈 諸人参詣 本尊 出火 弘法大師の御念持佛 厨子
大日堂 村所東側 弘法大師の御作 大日如来坐像二尺 建立の年紀詳ならず
戀塚 村所 大日堂の右側 禅寺の門前 由緒未詳
林道春撰
所の碑碣を立ばその序
鳥羽戀塚者文覺爲源渡妻所築也初藤盛遠聘彼婦而無道劫婦之母爲媒徑母呼而告之婦念不聽。則殺母不孝聽則棄夫不義噫不孝不義吾生不如死欲以身當之乃佯諾曰請失我夫而後可以從也一夕在閨新沐而卧者即是矣我開戸而待之盛遠約去婦還設酒與源渡相獻酬使卧於奥婦自沐卧閨夜闌盛遠呉到斷頭持去黎明視之則婦之首也盛遠甚哀郎爲僧所謂文覺是也其後在高雄遥望埋婦之處名曰戀塚世俗所傳蓋如此嗚呼婦孝乎母義乎夫節乎其身雖丈夫不過此也長安大昌里之節女同日之談乎秦之懐情臺以貨淮之漂母墓以恩胡地之青塚以怨何足比之哉曹娥之孝溧水女之貞其碑其名古今不泯此婦之名亦然乎彼之戀之者在色耶在節耶不可不擇也浮屠之右塔銘猶如碑碣也
銘曰
吁節婦兮 惟孝惟義 羅山子 撰 石可泯兮 貞名系已
正保四年十一月二十九日 永井日向守直清 願主

諸人現在の霊瑞を見るの霊瑞あらたいよく薄信厚敬の心を起し本堂の具営年々怠ることなかれ如是如来の應験しるかるべし
○薬師堂 村所 寺町 坐像三尺 瑞光山宗林寺 本尊薬師如来
大日堂 村所東側 弘法大師の御作 大日如来坐像二尺 建立の年紀詳ならず

瓜の名産ハ会城の狛里と
詠ハれど今ハ仕る羽小松
もの胡瓜更味もよく候
焼小勝もてなし法ハと
夏と秋との紀ハる用の
とゝめ又南史み
いつく勝景とゝ
その五嵐の時毎
熟夜な患て寒の
中ハ瓜を食せん
事坂井の勝景
四方を歴訪とゝ
も得ぬ事ハ
ハかひ〳〵乃神紀
出て我ハ後瓜や
〳〵と一つと分て相
遣の人ハ去ま次
て寒瓜おろ〳〵と

鶯黒と足至春
の天ハ通とゝや
ゝ賀ゐ

初ま芸菜瓜
堅みや
ゝん
猫ゐや
せん
ゝを紋

城南神社 小松のむら〻森の中に
喜式出雲神八座の内常に尊ミて日本不易皇室神宮とうづく其後延
平安城南隅の守鎮護の為伊勢石清水加茂松尾平野稲荷
七社傳ぜん王城乃巽方うしとら方名公遠社の神躰とて例祭ハ九月廿日神輿二基上る初下る初仲
塔の森小松等乃八幡宮 東の方若宮 本社の東側三光社 本社の西上
生土神とて城南神の巽の方中
常念寺 城南神の巽の方中
村ふある本尊ハ阿弥陀佛の立像にて
せり故小松の名の起ハ昔日の松の
松のこ葉を綴ふ久〻しう
御所内 城南神の西中
城村民居一町ゑり國の方ふ一堺
小殿ハ今の安楽寿院の地と
地あり字を高畠とくいふ
字の所あり
馬場 菖蒲池 泉水等の字あり
離えの奮跡ふ
千載 咲しより散までうれたき本の
ミぶ〻ふ多き時ハ
夢せ給ひて後世ハ

竹田街道を通る車
牛の日每ふ伏見より
郡へ貨物を積やるに
炎暑みた夜なり日
中にて牽通ふ牛の
疲さこそは要意ふ
まさく牛飯銅ふ乃
ふるふなりとそ

皆伏る
車の
上や
風薫る

衆雲

勝光明院古記ニ曰名羽ニアリ今旧地詳ナラス次近キ釋書曰保延二年三月勝光明院二十三日名羽ノ勝光明院ヲ慶ヲ導師ニ忠尋咒願ニ覚猷　其日帝　上皇六宮百司ヲ率テ集会ス頗ル古今ニ著聞集曰

久寿元年二月十五日　法皇美福門院ヲ同車ニテ鳥羽ノ殿ヲ出サセ給ヒ勝光明院ヘ御幸ナリテ庭ノ桜ヲ御覧アリ阿弥陀院ヲ御覧ゼラレ次ニ御堂ヲ御覧ゼラレ次ニ御所ヘ入セ給ヒ御小袖等ノ御引出物アリテ伏見ヲ往来ノ舟ニ召シ御管弦ノ音絶エズ聞エケル

竹田　名羽ノ西ニアリ洛陽東山院ヨリ竹田ノ殿ヘ御幸ノ路ナリ

真幡寸ノ辻　又ハ院民ノ外祖ノ社司亀若氏ノ宅地アリシヲ

續千載　契ラセ給ヒシ我ガ代ノ友ナレバ

玉葉　打渡ス竹田ノ里ノ帰リ来テ

堀川百首　ムラ〳〵竹田ノ霊ノ前編ニ見ヘシ美福門院ノ御陵ノ西側ニアリ

近衛院陵　編年集ニ曰久寿二年七月廿二日近衛ノ皇居ニ崩シ給フ御年十七八月一日船岡山ノ野ニ葬ル云々

○百練抄ニ曰長寛元年十一月廿八日近衛院ノ御骨坂名羽ノ東殿美福門院ノ御墓ヲトル云々

○享保三年　大樹吉宗公　御治世ノ初メ歴代帝陵ノ修改アリ其記ニ曰ク城圀紀伊郡竹田村仁和寺領ノ内畑中ニアリ

美福門院ノ旧地ト云々

西行寺　不動院ノ北ニアリ名羽ノ院ノ北面佐藤義清ノ所ニ別舘ヲ構ヘ鳥羽ノ仙院ヘ昵近ヲ保ヘシ年七月二日　名羽院崩御ノ後ハ

野田仙

落髪シ法師ト号シ剃髪後ノ法体ト号シ東山ニ庵ヲ結ビ住ス後ニ嵯峨ニ移ル

像放安置ス又西行上人ノ画像ヲ安置ス定朝ノ仏ヲ作リ上人ノ念持仏ト称ス

失消地蔵ト称ス今浄土宗ノ僧ヲ置ク

扶桑畧記曰

公家近衛殿ノ南ニアリ名ノ由来ハ荘園ノ領主ノ侍臣北下輩人等名家ヲ賜ッテ舎屋ヲ営造シ完都ノ卿相ノ住ス

寛正ノ頃南小八町東西六町水ノ深サ八尺風流ノ勝地ナリシト云

山王大宮　安楽寿院ノ北ニアリ

蔵ノ中ニアリ

神輿ヲ安置ス

十禅師社　保延年中　鳥羽上皇城南離宮ニ

保延年中　鳥羽上皇城南離宮ニ

神領アリ御祭礼ニハ神輿ヲ

猪熊　竹田ニアリ

国分寺　竹田里高瀬川ノ西ニアリ

九品寺　旧ハ村圀分寺ノ南ニアリ

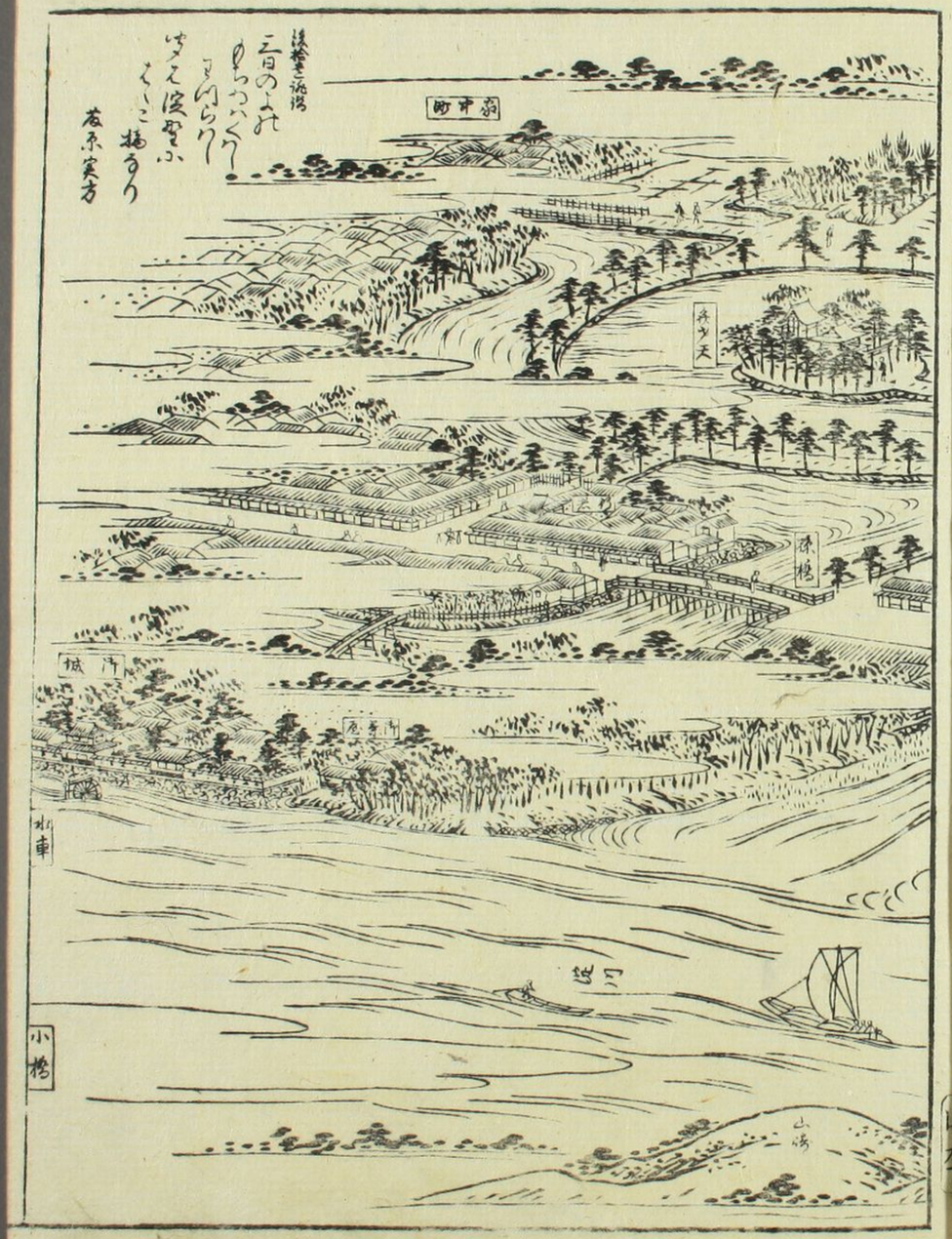
伽藍開基記曰書ニ本朝法皇七十四主　名羽法皇

石藥師 日村安楽院の東門の小亀井茶師 日村常楽寺あり弘法大師の作
田中天王社 下鳥羽のむら〳〵森の内ふあり祭神牛頭天王下鳥羽挾大路等の生土神と次例祭を九月十日神輿一基あり
久我畷 此道を上鳥羽の南の端西側より入ッく塔森坂往て桂川の下流久我の渡口を越そ山崎へ通ふ道なり
行うれを畷といふむら〳〵大内裏の洋時西國より王城へ通ふ街道みて
其名高し古昔ふゝ久我畷合戦の地是なり
久我神社 上久我ふあり靈妻明神と号ス土人生土神とス例祭四月己日三代實録曰 貞觀八年八月十四日丙戌山城國正六位上興我万代継神
ふ従五位下ふ叙ス 久我社當社の森ふ在
授くとゝゝ
六帖 本々ふそよ茂るも紫せり久我の森淀の渡やはゝそしふん 光俊

ほ いとゝやもるほそ屋ゝ久我の杜本ゝそよ茂るも紅葉あめり 大伴郎女

八幡宮 石の社乃むら〳〵 御所屋敷 久我ふいまへより公家の所領之其別業ス
本清寺 ほ村民居乃中ふあり法義宗みて開基ハ真滴法師
此里乃民家こゝかしこ往古ふ久我の邸ありし古地の家乃むら
鴨川 和の名と淀久我の邸を曝を産業とス
横大路渡口 挾大路の西にあり此所より
愛宕社 富森にあり〳〵へ赤井河原 いま〳〵へ富森の北より東にそふ一面の淀
此所ふ森あり今乃むら〳〵へ赤井橋とい今乃
む桂川の下流ふ掛る赤井橋とい今乃

淀 京師より南の方二里ふそ二頭住密郷ニ云ッ淀いよ〳〵みなつよろの淀もそこゝろゆくかぎりなく紙ハ淀といよ〳〵淀しもそあり此淀川といふも桂川鴨川宇治川木津川多のめぐりくなでゆくるそゝ
新後拾 のりえぬ淀れ桜の總多縄ふのをひくふとも
風雅 みる人を渡さんとそふとも總の長くもふや淀の川系 前内大臣實
新千 五月雨ふ乱む總ても杉そ淀乃ふ 正三位 隆教
淀城 初ハ岩成主税助の築所ふ其後秀吉公の御築中ふ所ふ在ふみて淀殿
と號を築ス 秀吉公の御代 従二位 藤原隆信 朝臣
水垂 鴨川桂川乃落合をいふ南北ふ亘ふく人家なり南ハ山崎摂津國路ふ
續く水鉢ふ樋爪赤井菱川ふ在ふて本尊阿弥陀佛立像三尺五寸計を佛ス
阿弥陀寺 いまへ淀の弥陀次郎ハ此乃あ庵より細祇ふ引揚し尊像
ふり奉ふ茶綿五箇庄西方寺ふ在ふて水輪寺といふ今宗の中興ハ観空法師ふり
弥陀次郎宅 城の北ふ在て漁をなす家中ふ
淀渡 秀吉公の御時大橋小橋孫橋ふ架ス今ハ一流の大河ふみて舟
渡しと大渡ともいふ茶綿ふ淀の渡ス
清少納言 卯月の晦日ふ長谷寺にまふ
枕雙紙云 車をうちとゝめて行ふ水ふ
さそいでゝをりうつるこゝろ
ちりつもりぬる名こそ
淀ふ


京町中
淀城
水車
小橋


淀の大橋
京町中
大橋

八幡山　淀大橋より十町計ありて北の方に坐す。山上より北の方橋の南爪坂
十二景　雄徳山と書に嶺を香呂山と書す。遥に別名男山あるなり
辺都會の地みて高客多し。秀ハ前編ふ足へし
八幡山　徳山霊社　洛城瑞霞　石水清涼　醍醐霽月
天台積雪　淀橋斜照　狐川征帆　伏澤落鴈
難波滄浪　山崎暁鐘　嵯峨暮烟　朝山晴嵐

頼風塔　八幡金剛寺なる町人名
由緒前編ふ

達磨堂圓福寺　八幡志水町の南高野街道の右ふあり禅家ふて造営を遊
境内にて八幡神領幣原村の内より西ハ摘菓みて細記八町計あり
寺説ふ曰

當宗の徒弟雲水遊歴の僧侶坂あり先て専禅定を修せん為ふ一尊
宿生ふく發願せるまゝ此地を寄附そ仏堂の境地とふ又庵室一宇を施與する
もあり足ら随喜補弼の檀徒おのく菜飯の労ふ走ら木を囲ひ渓谷を埋ら假ふ
僧堂叛設ふく一宇の禅刹ふ大應國師を開祖とふ又二ッの古蹟坂得ふ
境地の西ふ雲ふ堂舎を接へ霊像ふ此藏尊を安ー僧の室ら四棄の賓接ふ

達磨大師像　境内の東坐禅堂ふ安置ふる像ふ大和國片岡ふ達磨寺ふ
ありし像ふ雄徳山圓福寺と
むり聖徳王片岡ふ行啓ふ
に贈ら給世の多き所ふ
ふりし悟ところふ像を彫
圖會ふ見へふる処ふ拠上宮左ふの
帯化の半歩勤

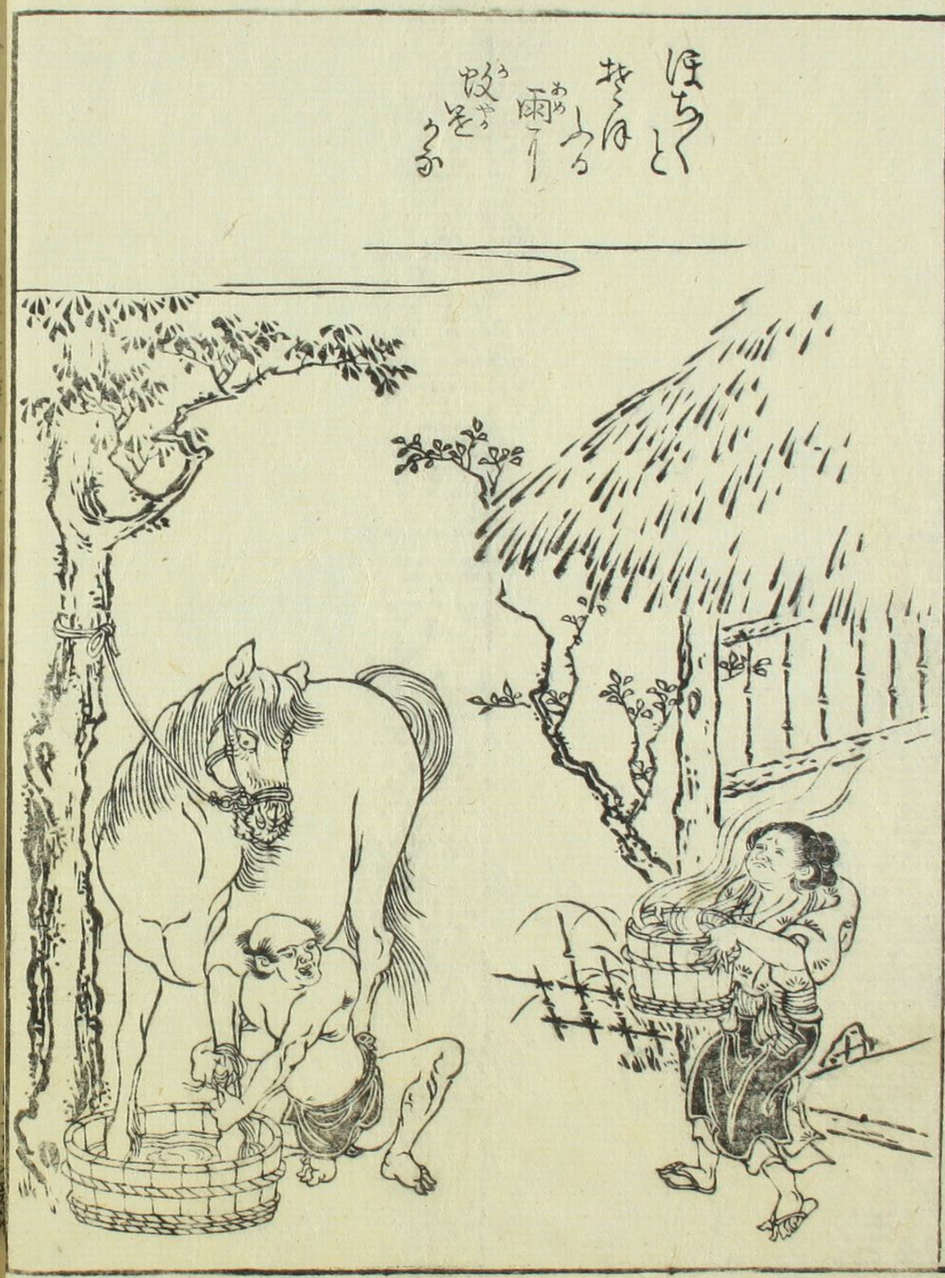
長の松　達磨堂の西楠巣道の
ぜり長生の義ふり名づくほふ

橋本　八幡山のお南ふあり大坂街道の驛みて人家の地十一町あり茶店旅宿
とて今中之町と号ふる所ふ橋爪ふり架を大橋ありて其東の橋爪ふり坂ふて橋本
出ふり今船渡とうたれを
金河　橋本の宿の南ふ流ふる小川ふ架ふて渡ふ
金橋　右の川ふ架を橋之山坂
河内の堺之

川口天神宮　男山のふり十町ふり川口村民家の東ふあり祭神天満宮
山所の勧請ハ一條院の御宇ふ宇治の郷士ある頃ふ当て四方ふ
疫もこれふ因ふ日陰陽師ふ命ふて寛ふ宇治山ふ嶺を照ふ次の
落ふり一ッの社ふ立ふ此ふ至ふ
を納ふ葦のおふ葦ふ天聽ふ達ふ宮
殿を造ふ現ふ日ふ長徳之年乙未五月四日なり
又慶應園院ふ御宇安楽寺ふ傍重遷天神沛自画ふ

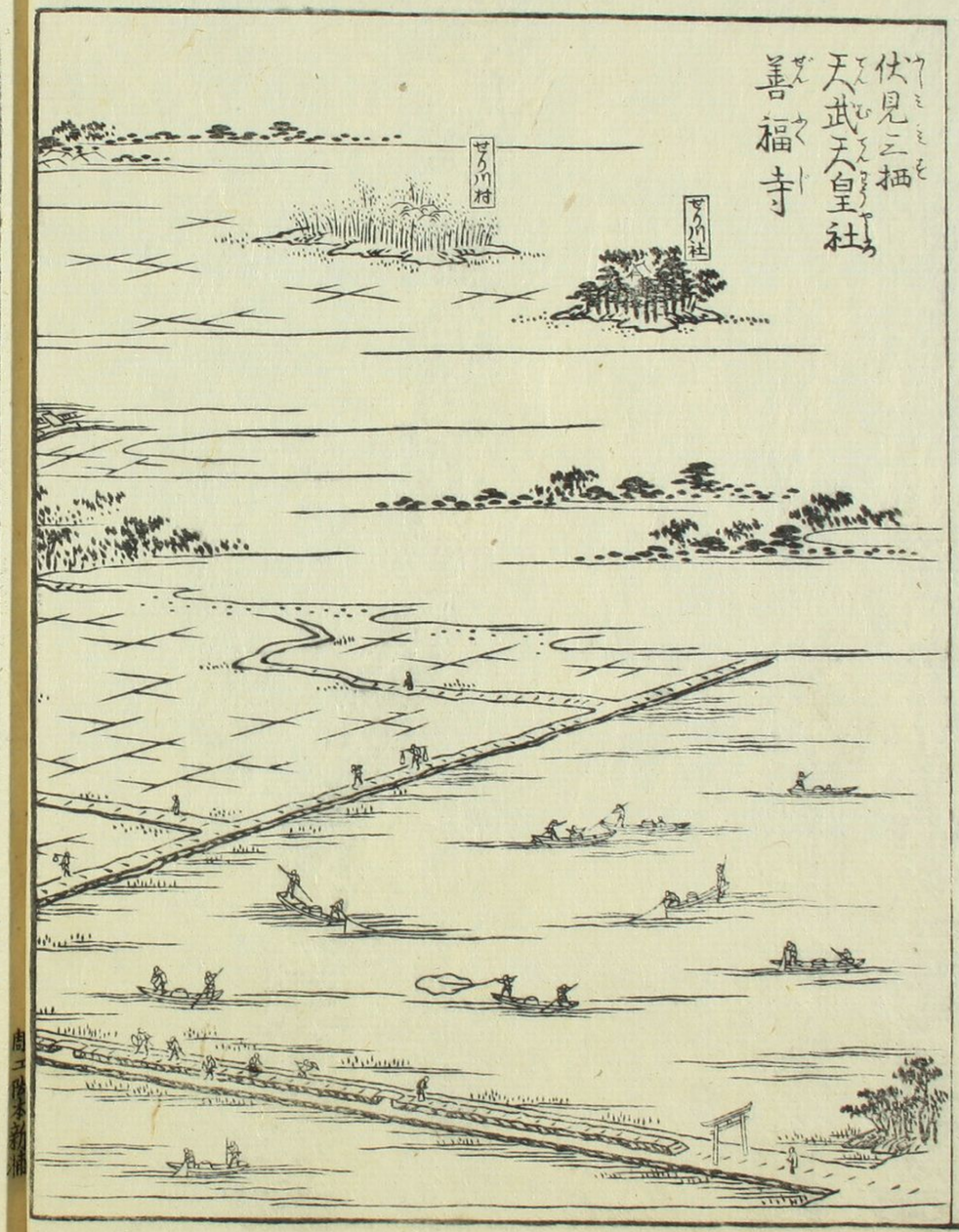
佛殿

幣原圓福寺



新像奴捧来るくまつり毎年五月四日
九月九日なり
御池　宮の辰巳二町ばかりふかし
出現の泉義城あり
内里王塚　八幡志のみぎり内里
名同顕乃山ふもり塚の
ふもとを片義非之延喜式曰継
帝陵御改之記曰今摂津國嶋下郡大田村にあり上津屋村にあり土人生土神と云例
牛頭天皇社　内里の乾いぬ九月九日
御霊社　上津屋の巽十町ばかりの
一口波の村一十町なり
平家物語曰
北を睦弱北日松のまちのもるれた此良の高根志賀ふむり長柄の雪もきえ
谷々の村ふち解てあや折節さくら白浪黒く張落流大ふ激
鳴て逆巻あも早ふもふ夜い曙しるしの源く立籠て馬の毛
も誰の毛もさだかふわ北大将軍九郎御曹司の塚ふお出水乃面を
足波て人々のあをそんじやられ久ん淀一口へや向ふをふ此内後へや廻ふ
いくぜんと宮ふ下着
御牧　波乃大橋の北爪より八町
西一口鎗貫中嶋坊地江口等之辻所いふ
ありて沖ふる舟数ち飼ふ牧
辻名あり

伏見三栖
天武天皇社
善福寺



新続古
春くれて
ちよの古道
ふみつけて
うれせりにほふ
いつの摘らん
家隆



御牧八幡宮　御牧村にあり系神五座　八幡神　功皇后　若宮　武内臣　春日
土人生土神と云ふ例系八月十五日

玉田森　同所の森

御園原　伏田村の巽五町ばかりにあり天子の御薬園なり地うるえ
足うら南の方諸村より茶摘に今ふ於て多し

淀堤　淀小橋より伏見より三條ばかり至る道すがら約程一里
秀吉公の御時に築きと云ふ

醫王山善福寺　上三條にあり東光院と号す初め約基菩薩の御基と
本尊薬師坐像二尺餘十二神将共に約基の刻作

脇士は二天弘安五年の作
後世禅宗となれり

天武天皇社　土人生土神と云ふ祭神天武帝なり此小祠鎮坐の年紀詳ならず
祭れるは大松明燈し神輿一基例系八月十六日の夜にして
神輿の渡御ありしとの例なり

伏見　義浴より約二里日本紀略に宇治川の里
と唱へて伏れと書きを宇治川の流れ水上所にて伏し湯なの里
なりと云ふ後世都て伏見と書きいみじへ民村にて九郷あり
船戸村。森村。久米村。法安寺村。
筆之丈記に三年秀吉公洛城の本丸の地を今の古松繁茂し
と云ふ石井村。小倉村。小内村。山村。即成院村。
弘雪堀　城山の内ふあり周囲弘雪の旧名を失して秀吉公の洛時諸候第の名
を以て呼ぶしぬ

宇治見山龍雲寺　城山の内字二ノ丸にあり
常憲院殿の法会持佛堂にて石川伯中守拝領して當寺
に安置せる初め敦賀町にあり天台宗にて本尊観世音ハ
秀吉公洛城の本丸の地を今の古松繁茂し
松原山　蒋欝として日城薇の乃所
弘雪堀　城山の内ふあり周囲弘雪の旧名を失して秀吉公の洛時諸候第の名
を以て呼ぶしぬ

宇治見山龍雲寺　城山の内字二ノ丸にあり
常憲院殿の法会持佛堂にて石川伯中守拝領して當寺
に安置せる初め敦賀町にあり天台宗にて本尊観世音ハ
行基の御作と云ふ正徳年中珍禁和尚中興して法寺と成
桃山天満宮　龍雲寺の西ふあり綾神
門乃傍忠菴より接て龍山藏
乃むぐらみち約六町ばかり
立　青へ桃山の南東西ふ通る街
氣北中ふ周て諸木の茂
足風土の書しいひへし

護國山開元寺　江戸町ふあり禅宗
高麗山　本尊恵昌上人の開眼
霊瑞多し故ふ子安祈禱の
東山院等身乃尊像みして
大師堂佛殿乃東ふあり正徳年中珍禁和尚中興して法寺と成
桃山天満宮　龍雲寺の西ふあり綾神
門乃傍忠菴より接て龍山藏
乃むぐらみち約六町ばかり
立　青へ桃山の南東西ふ通る街
氣北中ふ周て諸木の茂
足風土の書しいひへし

護國山開元寺　江戸町ふあり禅宗
高麗山　本尊恵昌上人の開眼
霊瑞多し故ふ子安祈禱の
東山院等身乃尊像みして
大師堂佛殿乃東ふあり正徳年中珍禁和尚中興して法寺と成
桃山天満宮　龍雲寺の西ふあり綾神
門乃傍忠菴より接て龍山藏
乃むぐらみち約六町ばかり
立　青へ桃山の南東西ふ通る街
氣北中ふ周て諸木の茂
足風土の書しいひへし

護國山開元寺　江戸町ふあり禅宗
高麗山　本尊恵昌上人の開眼
霊瑞多し故ふ子安祈禱の
東山院等身乃尊像みして

伏見より大亀谷抔
徑て大津へ出ル
道ハ秀吉公伏見
沸立城の時より用
初一之今も関所の
列候吾妻へ来勅
使の往来ハ此道を通る
東海道ハ
廻り道也





去年の蚊
ことしく
桃の花

鬼貫

伏見城の龍雲寺の
やゝ南方十町ばかりに
数千株の桃花あり
弘法の筆の幻影の通
故郷へ行宇治見と
よろし眺望一しほふ
して宜治川に浮ぶ
茶舟小舎入江の水
鶏声を聞て行田の男人
淀の城八幡山洛の
翠微をも眼下に
ありて騒人の
故郷なる

宇治見山

龍雲寺

叱咤時移霸業空
百年春夢動春風
金湯變作桃花塢
遠近霞啟千里紅

東涯先生

本堂

祖堂

住房

桃林

天作

常盤井　御都宮乃南常盤町にあり
　　世に伏見とそいふ　双帝あり後人
平治物語に曰
二月九日の暮に入て三人乃おとなひ
　　ハッある今あるをはゝそ
　　ふるしく
　　仏の中
　　ありて
　　ありて
　　ありて

霜露天涯墜
苦來侵鬢毛
坐驚年序早
獨對月明高
孤館冷殘酒
故人寒贈袍
鴻書過未達
尚向客中勞

南郭

指月山
月橋寺

油懸山西岸寺　下油懸町にあり浄土宗にて知恩院の末寺阿弥陀佛を安置し山號を山文字成澤樂寺と號く西岸寺と稱す

油懸地藏　門内の小堂に安置す石像長五尺餘の地藏尊にて光背に油懸地藏と彫付あり

源空寺　新大黒町にあり浄土宗にて圓光大師の舊跡二十五箇所の其一なり

観音寺　同時の紀元親世音を本尊とす

大光明寺　二尺三寸計の阿弥陀佛一躰を安置す

本教寺　後町にあり法華宗にて京都本圀寺の末寺天正十八年日受上人の開基なり

金札宮　祭神天忍穂耳命一名正哉吾勝勝速日天忍穂耳命一名天之菩卑能命一名天穂日命一名建比良鳥命一名建比良鳥命一名武三熊大人命一名大国主命一名大国魂命一名大物主命一名事代主命一名八千矛命一名宇都志国玉命一名大国御魂命一名顯国玉命一名国作大己貴命一名大国主命一名大物主命一名大国魂命一名葦原醜男命一名八千矛命一名宇都志国玉命一名顯国玉命一名大国御魂命一名大己貴命一名少彦名

うじ
伏見
だいくわうじ
大光寺

本堂

大
千
劫

本経ら

三福寺

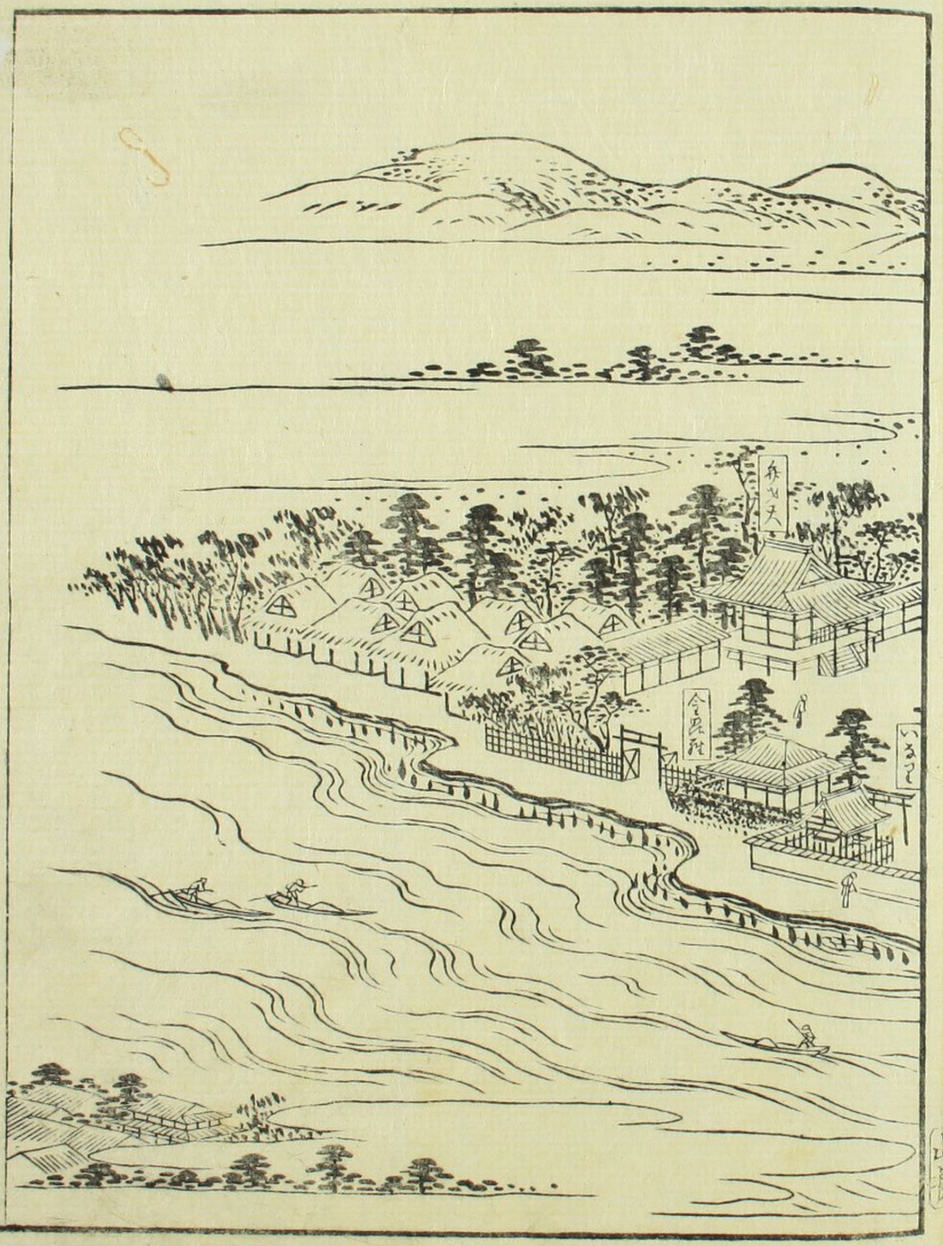
妙福ら

北花芝ら

西法ら

伊澤

伏見中書嶋
弁財天





伏見京橋
住吉社



松蔭し
世(よ)俗(ぞく)
をみうの
名木立

斑竹



寶國寺　馬ノ場ニあり淨土宗にして知恩院の末寺本尊阿弥陀佛は
安阿弥の作引接の相にて開基は圓誉上人
観音堂　門内の右にあり足一丈五寸七歩蓮臺
清水寺と同時に頼田村将軍の守本尊にて後世に残る江刕観音寺の
城主佐々木家より安置し其後當寺に奉附ぜり霊験いちじるしくして
信仰の諸人群集す
念佛寺　聚楽町にあり淨土宗にして知恩院に属す本尊阿弥陀佛は傳教
大師の作と開基は頓誉西堂　天正十八年の草創なり
天滿宮　錦小路町にあり本名は菅原道真公の遺所なり
白菊井　今は枯て七軒町にあり此所の天井板に大石内蔵助が筆跡あり
有馬稲荷社　墨染の旧地なり　左神宮
正覚寺　墨染にあり淨土宗にして知恩院に属す本尊は三尊佛
共に恵心の作と脇士地蔵定朝の作と伝ふ安置
墨染桜　所之むかし今墨染寺庭にあり是より遥か艮の方之今絶てなし
世継物語云
今いむろ園融院くれおそく侍て実方の中将
墨染桜おりてもとをりてくるべき
墨染れ衣うき世の花盛折つてもとをりてくるべき

又墨染寺の什寶の内左近秀吉公衣冠の畫像あり長谷川等伯の筆
歟像の上に秀吉公自筆の和歌あり
おくれてと名をや残さん墨染の桜木の花も風にまかせて
此所は細川幽斎公の詠ありて自筆の短冊寺にあり左右に
用ひ給へりと則ち染所も此所なりしと墨染桜
地名となり則ち染所も此所なりしと墨染桜
稽思町とよぶ餘は若干の見物なし
種蓮菴　花の森の名ある据おのおの近来廃して所之寺堂舎の建立なし次
丁峰寺　旧所は筋違橋南爪にあり禅宗曹洞派にして洛陽宗仙寺の属にて
本尊は釋迦佛開基は脇堂和尚
西岸寺　紫野中之村町にあり真宗にして西本願寺の属にて開基は九條
女王日君之則ち親鸞聖人の息女玉日君の墓所なり即ち人
小國左遷の後玉日君は此地に止住しかの地にて薨去ありし
ゆえに村田柔女聖人乃教化をうけ剃髪して有阿弥と名乗ありしと
草鞋影　親鸞聖人小國経由の砌茶園右乳の辺にて紙雛を給ひ新像の
形見として草鞋を履て歩行する人像之墓坐は山嶽乃形なり模
計なり念珠石は杖を撰乃上草鞋を履て歩行する人像之墓坐は山嶽乃形なり模
堂乃南にあり
王日君墓
西休寺　紫野にあり淨土宗にして知恩院の属にて本尊阿弥陀佛を
毘首羯磨天の作之引接乃相にて開基は林南
尚ほして慶長九年の
草創なり


源氏の里
國屋店
源氏乃
おわる
國
安久れい


京の
小町
よ
哭
そやら
夜
去来

源草里云うし 俗に小山を限て垂れ
一個の勝地ありて古人の別墅
鵠の名所みて古人の別墅
多し
新古 そひ入身をうき茶の杜のあやまや木枯乃風 家隆

續古 源草や誰古江とも思ひ分ず 土御門院
此里乃名産の土器風爐具
一村古江を産業とせる蕃椒の粉の團をいへり
世の名物

道澄寺 源草筋遠指小六町目ふあり本尊地蔵尊の約基の低みて立像
栄ふ寺ふあり則寺の銘を鋳ふ子ゝ著に大和名所圖會ふ見へたり
此寺今律宗にて好法師ありて修理をほこ
常安寺 旧所ふあり本尊阿弥陀佛 門外の南に小堂
十一面観世音坂安置
祝る春日の社を安
石像五百羅漢 源草石峰寺境内ふ十六羅漢五百の大なる圖繪し釋尊霊鷲
山ふ於て法坂を説給ふ体相ふて周ふ土
寝るし迄釈安永の半ころ
画工寂中老石面ふ
圖して指麾と
嘉祥寺 旧所僧房村のふぐ
安置し中興空心上人安楽行院再建の時也乃方竹林の地

井中ろ堀出しに霊験いちじるし
後大ゝて仏壁巍々たり仁寿元年二月仁明天皇清涼殿坂移され
嘉祥寺と改ゝ由之徳實録ふ見へたるの旧蹟なり
地多くあり是ふ嘉祥ふ改ゝるの
仁明天皇陵 今洋ふ後帝陵と伝帝陵ふ後帝
文徳實録曰嘉祥三年三月
下て垂陽殿の庭乃
續日本紀嘉祥三年三月廿
葬ふ遺詔ゝて葬坂薄し
誄吹方相の儀さらく
停止小徒ふくえ

安楽行院御廟 旧所堂前南向ふあり坂陽城院 中和門院の沸骨坂収
乃沸女之帝陵記曰後陽成院
元和二年八月崩
法華堂 坂建ふ本ふかの院今の
石棺あり六枚の蔵石どうべ
収らる所ふ。後源草院。称光院
事皇代記明應記二水記等
玉葉集
芝のやらまでおひしげりを
源草や露ふとつる乃をとろく若の袂そろ志れゆく 入乃お政春

真宗院　安樂行院の北にあり　淨土宗にして西山派深草流義の本寺
なり　脇壇の左右に善導法然両上人の影像を安置
佛殿の額に龍護殿と書して二重垂根を用ふかくる
唐ゟの上みかくる　真宗院乃竪額い堂内外陣乃中央ゟかくる
後深草の院の震筆なり
通西軒　陽前ゟ大門外相の北ゟ石あり　北面女人男女級許
經藏　佛殿の西向ゟあり　本尊釋迦佛坐像一尺餘　脇士いたゞ迦葉
鎮守社　佛殿乃北ゟにあり　右ゟ阿難放光座　左ゟ
檜葺　愛宕坂ゟ移す　當寺ゟ後深草帝の本願ゟて
開ゟ園空上人ゟ寶治年中ゟ草創ゟそ初の地ゟいまゟより二町ゟ
坤の方今民家の間ゟ散在ゟ
當院中興ゟ誓願寺乃龍空上人
にして今の如く再建ありしゟ
殿谷　小ゟ宝塔寺の地ゟより真宗院ゟ
南ゟ谷にまでその地名ゟ
古今草深き壑の谷ふぢそゟて跡ゟ
玉吟　おもひやは苔乃下ゟを歩ゟて今ゟ
夫木　茶深き庭の谷ふそゟる當ゟやむゟこゟゟ

文屋康秀
家隆
鎌倉右大臣

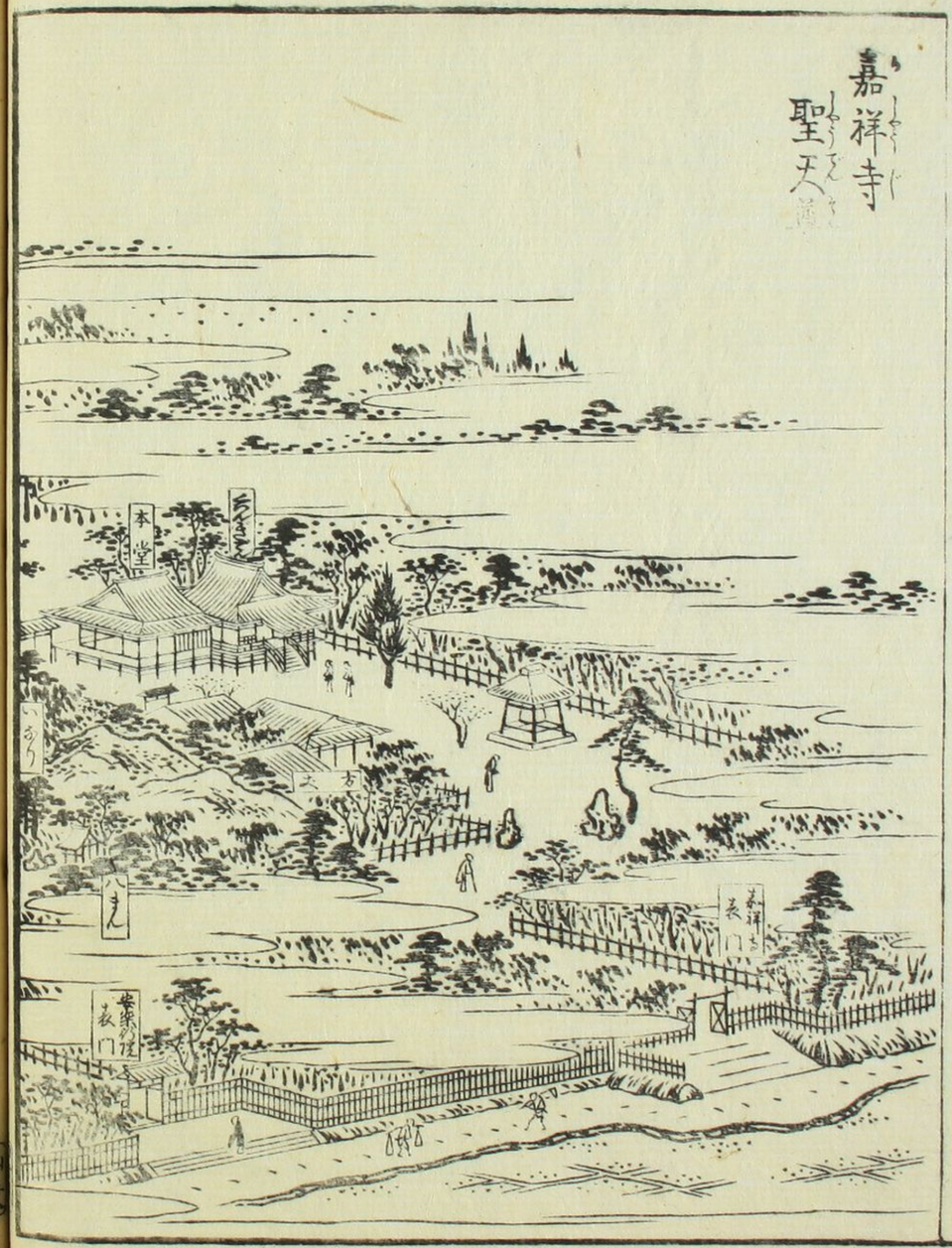
戸坂囘て寝ゟや　素乃谷ゟ蝶

伏見院陵　帝陵記曰後深草ゟ第ゟ後伏見帝ゟ陵
今安樂行院ゟ艮ゟ燒内ゟ中ゟ
後伏見院陵　日記曰後深草ゟ第ゟ後伏見帝ゟ陵
履皇　安樂行院ゟ西僧房ゟ申酉ゟ方ゟ
晉明寺　ゟゟゟ

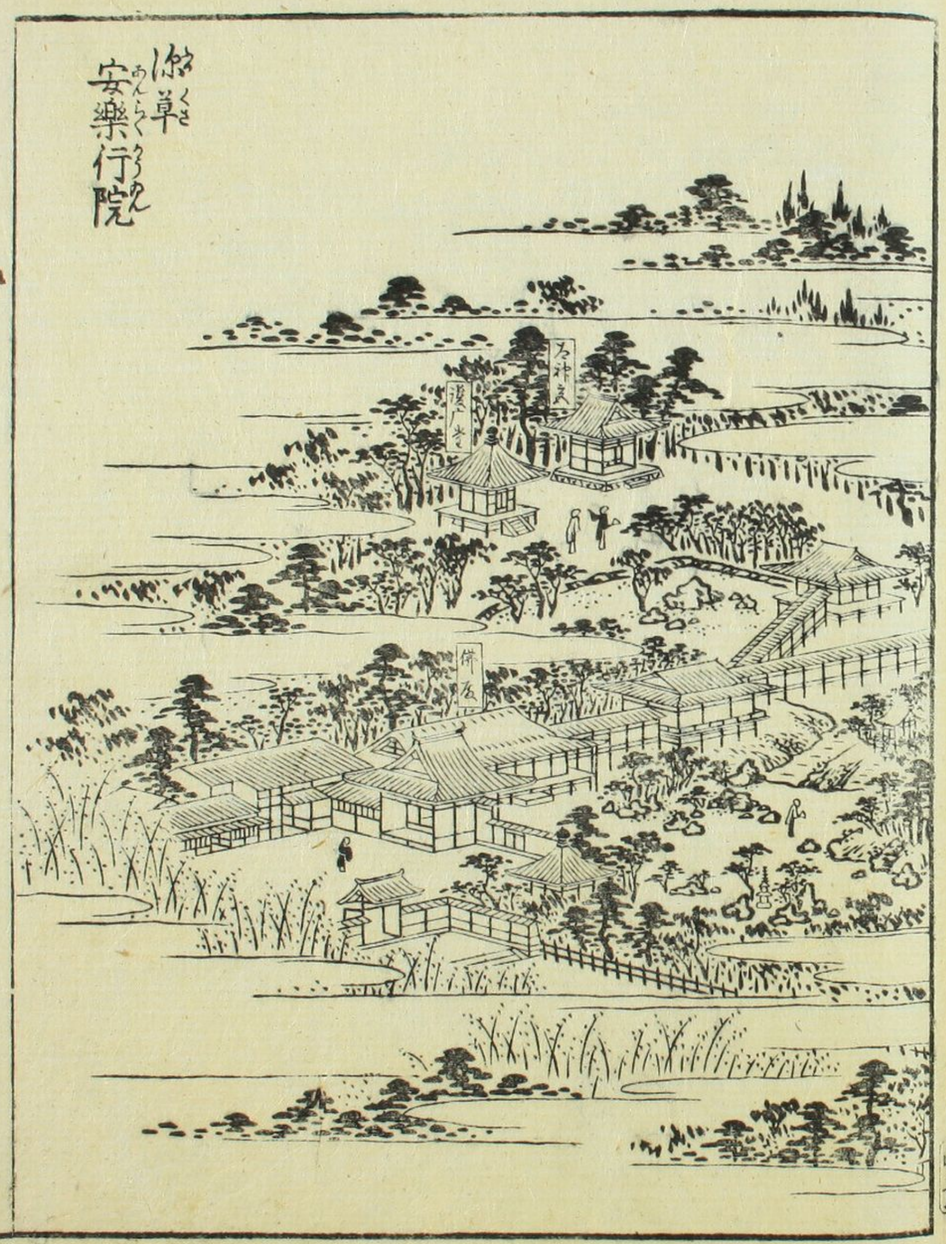
日本七月六日聖宝尊師入寂ゟ
貞觀寺舊地　今ゟ乾ゟ町ゟ北ゟ一段墨染寺ゟ地ゟ貞觀寺ゟ
曰貞觀四年ゟ始祥寺ゟ
善福寺　寺ゟ北ゟ町乾ゟ町ゟ東ゟ頼寺ゟ属ゟ
嘉祥寺　嘉祥寺ゟ封境ゟ
嘉祥寺　嘉祥寺ゟ周祖真雅僧都ゟ
猿丸太夫墳　乾ゟ町ゟ西田ゟ
鎮守松　ゟ卿高山ゟ
東ゟ戒壇ゟ
女御貞子墓　今詳ゟ
從一位源朝臣貞子薨ゟ
兆域ゟ内ゟ葬ゟ
谷口　源草卿ゟ
見ゟり山邊ゟ至ゟ

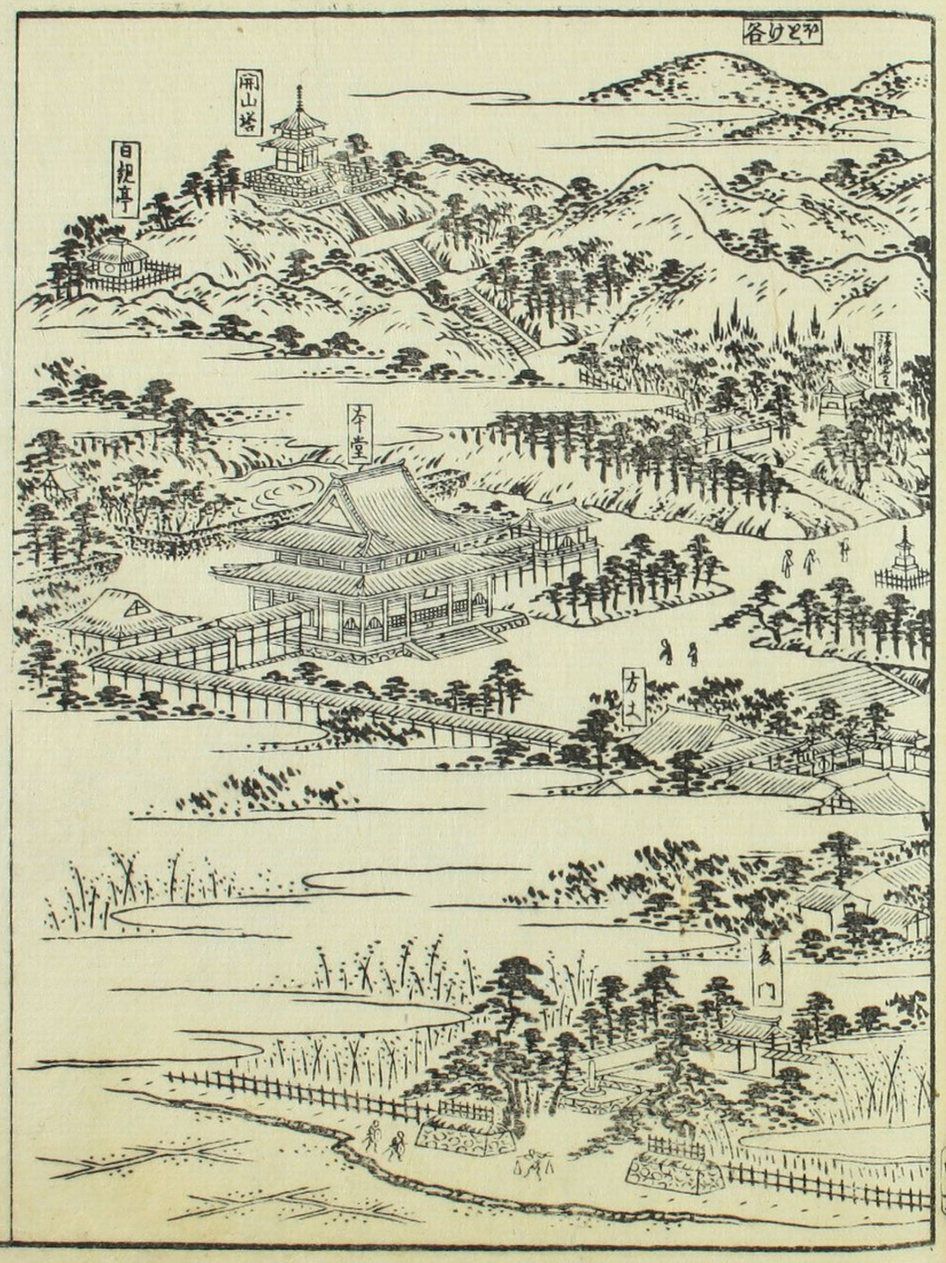
骨を旧所後深草帝ゟ陵法華堂ゟ藏む
ゟ骨ゟ所法華堂ゟ
ゟ骨ゟ後深草ゟ法華堂ゟ藏む今ゟ所
聖寶傳曰延喜九年四月深草ゟ
ゟ時ゟ
ゟ
ゟ

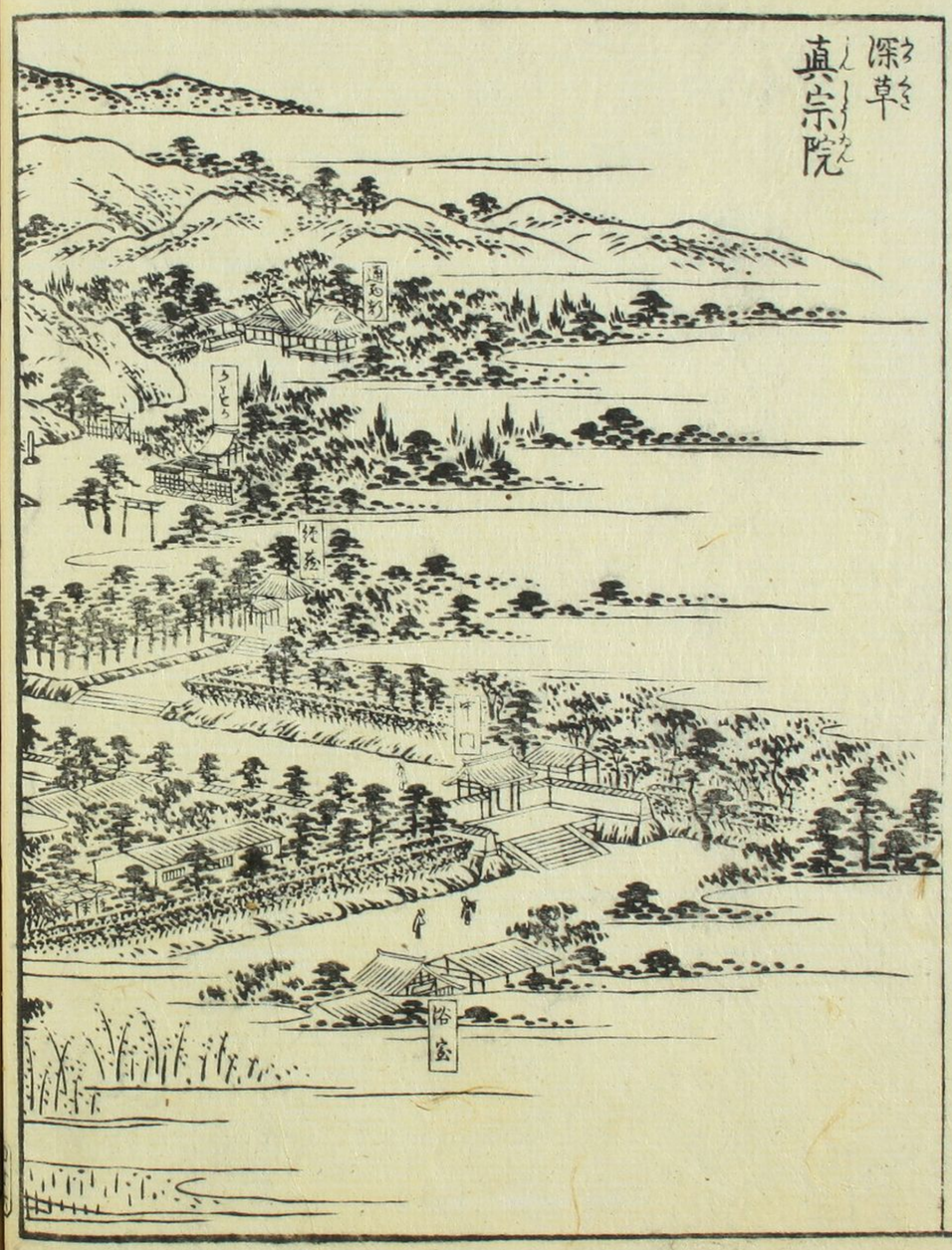
嘉祥寺 聖天



淑草 安樂行院




弁天堂
南山塔
日枝神社
本堂
方丈
表門
山長


浅草
真宗院
鐘楼
経蔵
本堂
裏門

桓武天皇陵　御墓乃郷中徃還道谷口村の渕よりあり
延喜式曰　柏原陵在平安宮北山谷口氏乃氏宮北陵より至りまた桓武天皇なり山城國紀伊郡
ありまた北域東八町西三町南五町北六町也寅の角れ二ツ乃谷坂
加乃守戸五烟とええ　江次第曰桓武天皇第三曰稲荷山の南れ野
若狭乃国　仏見ゑあり松原の中うち入て稲荷山の南の野ふあり
山城記曰　仏見ゑ松原の中うち入て稲荷山の南の野ふあり
編年集曰　桓武天皇諱ハ日本根子皇統珍照尊又山部親王とも老仮
帝養一乃皇子なり延暦二年都於山城國平安城ふ遷ー同十二年
十月廿一日都於山城國長岡ふ遷ー同十七日崩御
類聚國史曰　延暦二十五年二月十七日崩御
葛野郡宇太野於て山陵乃幕を奉ふ柏原天皇と號ゑえ
おのづつ燃る日おほしてひかり
共ふ焼ふ烟炎四方ふ満く京中空昏く凝くる是神威災致とそうろうて
山陵の地かゑ神ふ祟ふ異頻ふ起ふ乃ゑ卜筮於変をゑみ果して
即ト筮於変をゑみ果して
ふ筮従ふて亀従ふて今災異頻ふ起ふ乃ゑんやふて祈禱
あるべき所ふ立所ふ鎮ふ

をしを　桓武帝を今の京城を開れ給ひしを聖をみしを
平安城百王の礎ふ今時一千有餘載乃星霜於歴れ
とも遷都をゑいまだ中華ふをそのたぐひ於聰ふ白

黄龍乃瑞いあらさりしかとも天下の四民泰平の化ふ浴し幸み
皇城の市ふ都會して雑貨於交易しある雲水の勝を訪
て神窟佛墟於観をゑふ鷹ふ億年を彌らんことをねがふ

車塚　右陵より乏ふの間一町計ふの岸ふあり里人葬の風輦を飾る
所ふうつし今埴平て畠ふうろうとも久ふ存ふ

神輿墳　谷口民居のむら一町ふうろうあり俗云素祥寺鎮守
乃神輿なりふ里人狸ふむしらふ故ふ鎮守乃旧墳ふ

柏原野　谷口乃西北野ふうろうあり俗云桓武帝於柏原天皇と号ふ柏原陵ふ
延暦十四年八月天子柏原野ふ於猟ある由類聚国史ふ見えそうろう

霧谷　總名

福聚山海寶寺　谷森乃西北ふあり
観世音乃大像国南京人鑄聖王乃絵ふ脇士ふたり
虚空蔵右ふ将軍地蔵を安置ふ
昔日山十三世笠菴和尚も
築山二代乃居所ふ佛殿乃
左ほ国城江湖別清徳ほ縣乃人
火光鏡　南京乃傳来ふて
希代乃名宝ふうろう
鎮守天滿宮　茶祠ふ自然
霊験いちじるしく

谷口

桓武天皇陵





西福寺　扇森乃ゑう　大亀谷敦賀町ふあり　如意山光巌院と号し浄土宗ふ
いみへて知恩院を属して本尊阿弥陀佛ハ聖徳太子の御作長二尺八寸す
東照宮より遠地故拝領して草創あるしるう
釋迦堂　堂前宝蔵ふ安置の天竺目蓮尊者の祝して開眼
拯会乃尊像之。當寺の記ふ曰人皇九十六代の帝　光巌院
仙居あるし所之御製あり

玉くしけ乃あてそれいとゝ朝ようも身ふを袖ふも浪落て　光巌院

左記　光巌院禅定ハ伏見の奥光巌院と南し幽閑の地ふ住せめしくるとゝ云

昂成就院　藤の森の東と小ふ至ハ二町計ふはり大亀谷小寺町と号へ律宗にして
泉涌寺の内法安寺乃末寺乃ゑう寛治年中正四位修理を夫俊綱の建立そう
江戸町乃旧名昂成院村ふあり白川の皇女宜陽門院　先帝乃冷泉院の
則後郷朝臣の石塔あり
下野國那須庄故あ当時ふ寄附しめ文禄二年
伏見城を築めん時ふ此地へ
隆岡寺　大亀谷乃ゑう宇治道の南ふあり始ハ亀ふと号ふ法華宗にして
開基ハ洛の本能寺日達上人之法華勝劣派の學室とて
八科峠　佛國寺乃かゝり之土人八嶋峠と
名義詳ならず

木幡関守屋敷　秀吉公伏見城を攻ふ時ハ此地ふ陣ふ給ふ
御還の軍城中故見隙ふ乗ん故ふ
今乃道筋ふ当れり
千首ゑ
春ハそも木幡の関乃名乃ゑう

等泉寺　大亀谷敦賀町ふあり　如意山光巌院と号し浄土宗ふ
長八尺餘乃坐像之阿弥陀佛ハ恵心僧都乃作ふて
天王山　ハ所佛國寺の山號之則ハ山を天王山と號る事ハ開基高泉和尚そ
中ふ年ふとゝる佛面を拝ふ支躰ふ
合もるふ全躰故ふ浮ふら其時佛師を呼んでこと
天ハて弘法大師の作ふ
其形うゝ西國方乃武士登山
ようを乞くしく
ぬ山傍故浮ふ事ハ無ふ
感せぬをうてゝ故ふ
とゝいふあり延寛年中再建あり
覚乃號を揚ふ星郎林位寺
庫ふ祀む高泉和尚そ莫傳
人莫傳山ふ住して第五世之祖
ゝ祖編ふ記ゝら

木幡金辻　六地藏町より宇治ふ至ハ此の辻ふ六地蔵とゝ
故ふ名ふ
ふ木幡里之木幡の関乃ふよふあり今関ふとゝふ又木幡峠ともゝ

平治物語曰
明十日乃朝右馬門尉業景とゝ侍士故めして都の方ふの事うあるそ
まことそさしはらひ業景馬ふ打乗てそ行
舎人竹澤とゝ者ハ木幡峠ふそ信西入道乃
ヤさんとそそゝとゝ云へしゝハ
ふ下略

泽妙寺旧蹟　六地藏町より宇治道乃右一町餘みて北へ入一町を
ゆけば泽妙寺旧蹟なり今古木なるもの
らにあり　本朝文粹に載する
新後拾遺集　後近清渓白みまうでて澤妙寺に
よみ侍る　々々の事ども半ば朽ちぬ
末幡山君うゆくらんをれをもちよりそふる藤を悲しき　高階宗成

末幡神社　末幡里路乃北にあり　柳大明神と号す
末幡神社　祭神は綿津見乃三神
或記云一条院の御宇村上帝の頃
神々の祈念しく驗ありて
やんごとなき仰ありて
と云々　祈乃神祇伯
山ざくら仕まつりて
ゆんや侍人々々

なびかぬ草木もあれや柳の神のなびかせたまふ　近衛應山公

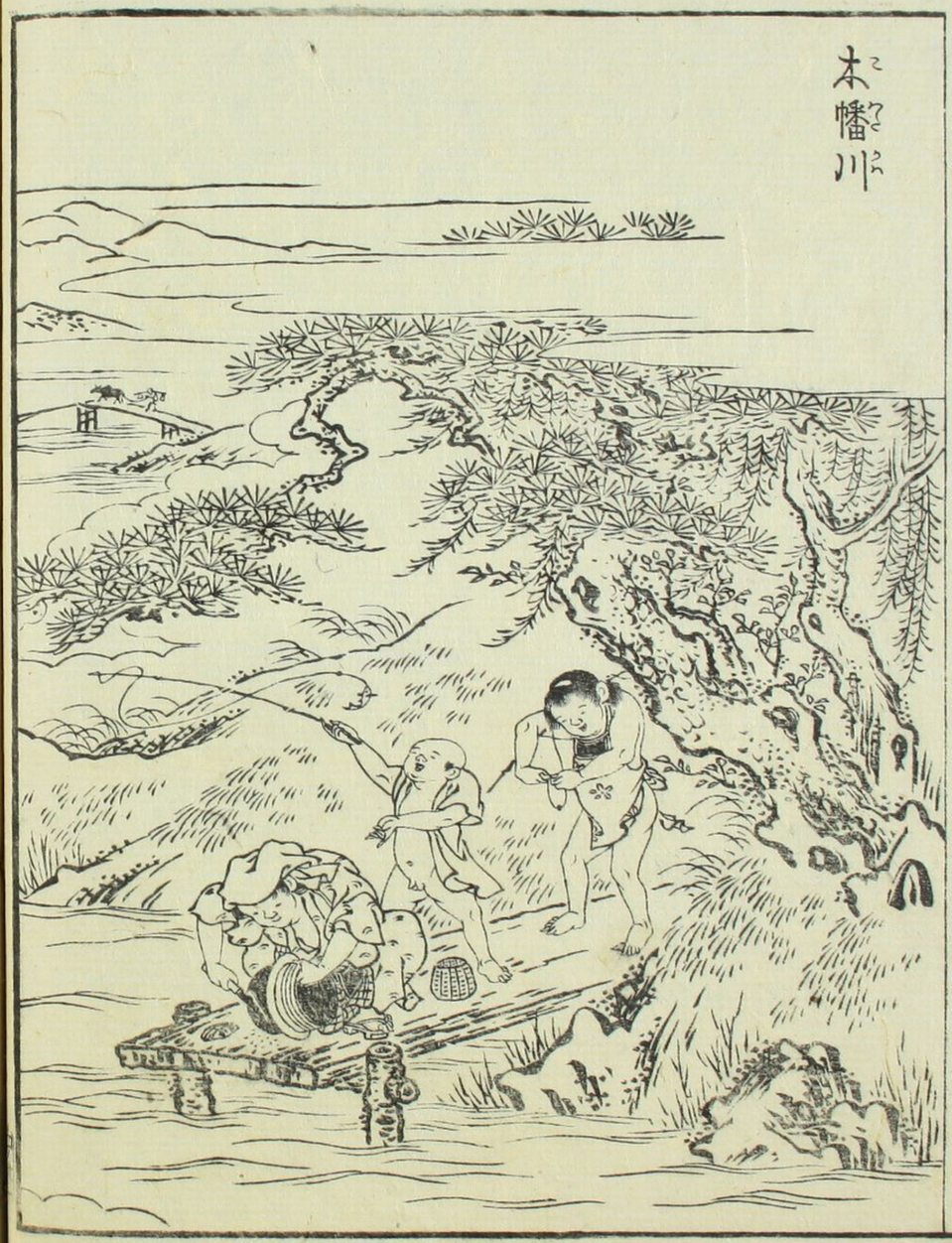
田中社　旧所民居の北一町計林の中にあり

尊勝山願行寺　末幡里にあり本尊阿弥陀佛は天照太神乃告命にて
中末幡流義の宗祖那須与一宗高公の
定親のおとの法然上人滅後相別派倉
乃委敷と侭学しく
と号にそれより年経て荒廢ふおよび
乃如く號改く再建せしまこと
旧記云

濱藥師　同所里乃東にあり村上帝の
之御七寸之像を安置し
不燒地藏　村上寺乃南にあり七尺計
を四方石瑞垣感して
金岡宅　傳云画工金岡巨幡に
旧記云
賢聖の障子ハ南殿にあり　八間各東四間みて一間　馬周　房玄齡
二間　諸葛亮　遶伯玉　三間　四人　魏徵　伊尹　傳説　仲山甫　子産　蕭何　四間　董仲舒　文翁　劉禹錫　羊祜　楊雄　陳寔　班固　三間　太公望　樂毅　諸葛孔明　李靖　虞世南　杜預　張華　二間　蘇武　倪寬　三間　酈玄　叔孫通

平家物語乃禁裏殿乃畫圖の衝障子をむう　金岡の書くらし　遠山乃
有明の月もそとそや
末幡山　末幡里乃西にあり宇治川の
東そそ宇治川に入一社宇治
拾遺　末ひろ川おとろひし言の葉もそ
玉葉集　いふせん人乃心に末幡川月もすめるせきもる　家隆





本幡川

五箇庄 本幡より黄檗へ至る間にて五つの庄あり山際に小野庄 本幡庄 伏見庄 宇治庄 是を俗の中間ありれば号ばかりの庄と云 五箇庄の内二町許大和田にありて萬福寺の領地なり故に黄檗と名く

黄檗山萬福寺 五箇庄の内二町許大和田にありて萬福寺の領地なり故に黄檗と名く 其脱漏を拾ひて補遺をかく

○天王殿 山門の東上堺の地 面南 由緒未詳 布袋像 堂内中央 安置して金色 韋駄天像 後堂東面に安置 全身金色にして三尺許 弥勒佛と称す 四天王像 同殿左右に安置 全身金色 左の東 多聞天 西 廣目天 右の東 持國天 東 増長天 各全身金色 左右共に金色にして立像九尺許

○大雄寶殿 天王殿の東 本尊釋迦佛 坐像丈六 脇士左 迦葉 右 阿難 共に金色にして立像丈六許 十六羅漢 左右の堺に安置 全身金色にして坐像二尺許

寶殿の後 ○威徳殿 法堂乃後 帝王 将軍 家の牌 西面にあり 安置 全身金色にして坐像二尺許

○祖師堂 南面 北の方 よし 逆磨大師像 坐像二尺許 ○選佛場 禅堂の東 南面 本尊觀音 坐像二尺許 脇士 善財童子 八歳龍女 共に立像二尺許 ○伽藍堂 西乃方 北向 伽藍神像 椅子に憑長二尺餘衣服冕旒 坐禅堂に仏前の左 坐禅乃床あり 右の半分を握る 本尊釋迦佛 坐像丈六許 ○禅悦堂 右堂の東 南向 金奈羅像 中央の堺上に安置 全身金色 本尊地藏 坐像 二尺七寸許 全身金色 ○牌堂 選佛場乃北 東南面 ○浴室 食堂乃後 北向にあり 高泉和尚の牌を安ず

開山堂 山門の内北乃方 隠元像 倚子に憑 紫衣長四尺許 袈裟 厨子に安ず 額 那伽堂 隠元像 子に安ず 額 勅書額 堂内北の棚 後水尾院 勅書 其文に曰

朕聞臨済之道 偏行天下至天童雙徑光輝益盛唯我日域久之宗匠幸黄檗隠元琦和尚受請東來立綱宗闡揚濟道大光於國功不可磨朕屡沾法乳簡在朕心 特賜大光普照國師之號以旌厥徳欽哉故諭 寛文十三年四月二日

○壽藏 門内乃右面にあり 壽藏の文字 紺青紙に金泥 南面窓戸に書く 窓丸し 形六角にして 其内に安ず 堂の下は截石 左右共に圍ひ 前白にして 内は隙えの遺身 故安ずる石の戸あり戸の銘に曰 開山隠元老和尚之壽藏乃下堂の北東の方にあり 碑石 和泉石 高一丈許 墓石亀形

隠元碑 壽藏乃下堂の北東の方にあり 碑石 和泉石 高一丈許 墓石亀形 白川石 序文 大小篆書 碑銘 以て接ぐ 碑銘の上乃方篆書 特賜大光普照國師塔銘

大日本國城州黄檗山萬福禅寺開山 賜進士出身光禄太夫禮部尚書上柱國 琦菴和尚塔銘 特賜大光普照國師隠元 太子太師中極殿大學士燕山杜立徳拜撰

天生真人無位而尊 為黄檗祖乃臨濟孫 須弥芥納巨浸毛呑 既而瑞世主張宗門 鞭撻龍象變化鯨鯢 迅機電掃熱喝雷奔 化網總握玄要掀飜 東來闡化澤被三根 大哉師也名震帝闕 松岡一座奮翠惟繁 去來無住生死昜論 既遇能事疾入泥洹 浮圖永鎮正體長存 孝 膽之仰之執不懐恩 恩光萬古普照乾坤

寶永六季歳次己丑四月穀旦

蜻蛉石宇治の里大佐方の
東二町許二室戸嶽の尾上を
高サ八丈余八社幅八廣さ
所々二人四人寸ホリ又寸許之
二面ニ如意輪観音の像を鐫
案そるふ尤人の作とうけ
ある人曰此地獄ゟ罪人を
責ル時乃大釜ゟくれんの炎ル所ゟん
昔て日部臣ゟ姫ゟせ一英会の命ゟ日能之
同人口を開て退ゟ出ル時恰ゟもゟわゟの日能ゟゟて

大佐方

宇治
蜻蛉石

○舍利殿 開山堂乃後ろにあり額を掲ぐ 勅書額 堂内に掛ク 後水尾帝より舍利殿と号を賜ふの事 勅書あり其文に曰

北天曽て自ら奉南山古佛眞身傳世間十萬里程靈骨暖三千年後異光斑宋皇述讃感生相源將頗心欽定顏晨夕禮拜服膺久弊峯永仰五雲間

佛舍利賜隠元禅師寛文己酉十月朔日

舍利塔 高サ三尺餘 金版ニテ作ル 舍利五粒 塔内ニ脇士観音 坐像八寸許ニシテ 同壇左右ニ向ヒ立ツ 後水尾院宸影 畫圖 持シ左ニ向ヒ立ツ 同壇右ニ向ヒ立ツ 畫圖 地立像 ○韋駄天像 二尺七八寸許 ○藏經印板庫 佛殿乃艮山上二町許ニアリ一切經ノ板ヲ藏ム

普化墓 黄檗門前の南二町ニあり 林ありて都鄙乃人士良賤を問ず 化導師ハ異國乃人なれ共 風を慕ふて專天八を愛し四方ニ遊ふ世乃人おれ坂呼んで普化と

浮舟宮 普化より四町許南宇治路の右にあり 源氏の巻宇治十帖乃内ニ出る神 宇治川の流ニ浮舟の杜ありて

三室戸山 三室戸寺の後ろ有範卿墓 有範卿ハ三室戸寺の開基 本願寺傳記ニ詳ニ

宇治川の兎道と書ク應神天皇の皇子菟道稚郎皇子此地ニ幽居しまします故ニ宇治ニ號ク 子山城國宇治郡ニあり 兆域東西十二町南北十二町守戸二烟ありて都乃巽ニ當る名高き名蹟かもくあり 今の離宮八幡宮ハ皇子乃靈社ニ坐ス 宇治八京師より四里乃地ニ在リ 古今著聞集曰

頓阿庵 三室戸乃居僧乃ふ草庵集ニ出ル 草庵集 去乃中ころ今旧趾さへ殘ラず 淡路乃ふ三室戸乃庵ニ於テ

さびしさの思ひこそ世を宇治山乃峯乃松風 頓阿

宇治川の流ニ浮舟の杜ありて 源氏の巻宇治十帖乃内ニ出る神

宇治川の兎道と書ク應神天皇の皇子菟道稚郎皇子此地ニ幽居しまします故ニ宇治ニ號ク 子山城國宇治郡ニあり 兆域東西十二町南北十二町守戸二烟ありて都乃巽ニ當る名高き名蹟かもくあり 今の離宮八幡宮ハ皇子乃靈社ニ坐ス 宇治八京師より四里乃地ニ在リ 古今著聞集曰

白河院御幸ありて興ありさざらふよりて今一日逗留あるべきよしを申さるゝ間明日還御あるべき旨仰ありけれども宇治の柴守ども大白の方ふあつまりて今一日の御逗留を申すによりて還御延引し給ひけり

宇治十二景

春岸酥醾　清湍螢火
朝日靄暉　薄暮柴舟
扇芝孤松　槙嶋曝布
三室紅楓　長橋暁雪
橋姫水社　釣殿夜月
浮舟古祠　興聖晩鐘

宇治橋 初メハ孝徳天皇ノ時宇大化二年ニ道昭和尚ノ架ケ給ヒシ橋ナリ其ノ後ノ事ハ日本紀ニ見エタリ然レドモ其ノ後モ度々流失シケレバ合郡西ノ人ノ世界ヨリ遊年寶暦六年山城近江洪水ノ時ニ橋墜流シ故ニ今假橋ヲ架ケ渡ス

宇治橋銘 大江匡房卿撰者詳ニ載ス

沉々横流 人馬亡命 大化元年 発願大願 夢裡空中 壬二集 宇治橋や疫病乃河風も 續後拾遺 弘安元年宇治橋供養の日 亀山院御幸ありて 條々往人 欲迫重次 其疾如箭 従古至今 丙午之歳 結因此橋 導其苦縁 倚騎成市 莫知杭葦 世有釋子 名曰道昭 攝立此橋 濟度人畜 即固徴善 成果彼岸 法界衆生 普同此願 家隆

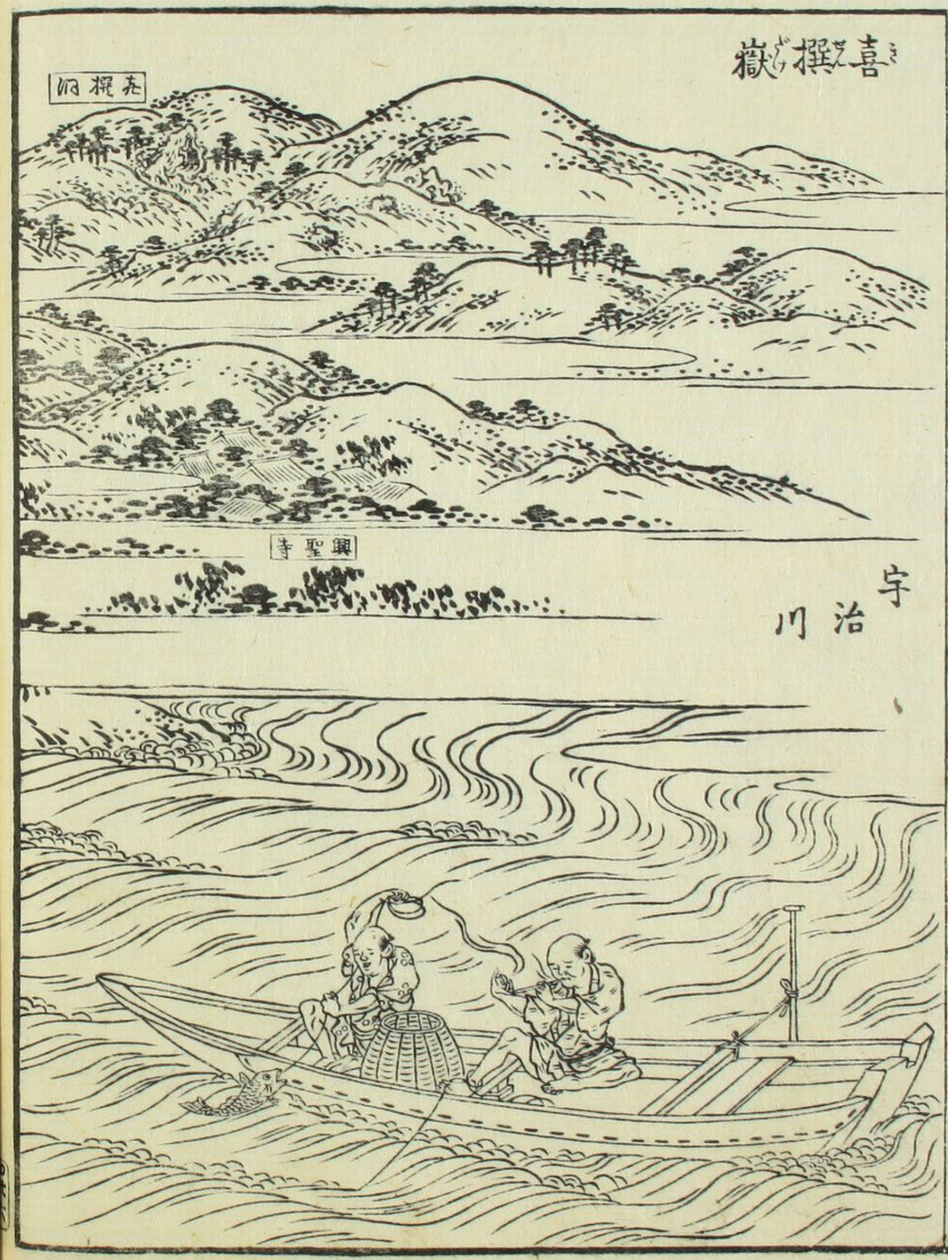
されど橋を秦の時咸陽の都として漕橋架造つて漢を便門橋を作り張良が圮橋みつく兵書授け相如が橋柱に題して駟馬乃車に乗ぜし山橋桓武帝乃御時架一初しより東方より唯口とあはそれより年ふりて治承のいくさに橋板断て三井の法師等西岸乃大軍板驚しえ暦ふりし橋を引て先陣板筆に筆久れ乱及び

しばしくの戦ひに宇治勢田乃橋板を半かぞくえ物橋つ星橋つて豊臣乃御代ふりこの間の水を賞し霞ふかつる紫舟をさゝく年魚板波の辺ふ掉さしめぐりて蛍の飛ふ板興ふ美景窈窕として山水いと清暉板倉虹乃ゑれいに流ふ架てを寝ぬ夜の枕ふ波ふ浅きあるを岩間ふよ寂ふ南方の奇観みつて魚板鶴風ふとうて李朴が造れる七星橋ともいひぬべし

朝日山 離宮八幡興聖寺 宇治紫 あしひきの朝日山ふ雲井ふゆる初日ふりふ 新古 檜原をい宇治れ川ふ立つこめて雲井ふゆる初日ふりふ 續古 紀葉都ふ山乃朝日乃色ふ匂ふ波ふ映てそうちれ川波 肇載 初日ふ檜乃里乃卯花をさしせる布と見ひるれ

校大納言 公実
西園寺道 前太政大臣
左京大夫 顕輔

喜撰嶽



宇治川

喜撰嶽を宇治より二里ゆきて槇川村より上ること須ふ高ゝ千丈の巖窟ありて其中に二ツ井の穴橋の行程なる地をいふ面ふくまありて苔蒸しく分明ならず



平等院　宇治橋乃南にあり　横門を小面にして　額を中納言俊房卿の筆と
今其趾遺存　元禄十一年三月二日宇治氏戸出久乃翁か焼亡して
獨門かあるのみ　此寺故草創しより　こゝに数門の地成しかと
あるをもて　此門の地成しかと　其地境を
やしきにあるをもて　此門の地成しかと　其地境を
と弱冠にして　同車の後ろをゆ
ふらは匡房参て漢土をも西明寺天竺をも
と申ゆひろたおりて　扨すて無雙乃高名ありし感じ久しゆふ平
等院乃門を小面に建るとも
扇芝　源三位頼政自害の所之其餘乃佛閣前縁ふ見えくれい

堤もと乃花や扇れ芝の露

當寺乃建立の永承六年三月宇治殿白頼通公之
記乃建武の頃楠新田両将そ
宇治の向人正成敵の
院乃かたら一宇も
寶蔵忽ちに灰上と
年中乃ち優さ
足故に本堂に初乃建立より
堂塔佛閣むかし
ふ建られ治暦二年
猪楼を建らはよう舊記
帖の中菩薩蒲法の師
乃宝物を納むとそ今

法皇堂

宇治乃町人家の間
前法皇乃建立
さそそれを集めて雙帰
楓嶋乃地名
あかい嵐の江あり是故
故賞して釣月と号く
れ地うしいとうい天正之年
されを植る城とうく
信長乃ふ滅され
栗子山　宇治一の坂より坤の方十町
判官源為義南都乃
て落首を

栗子山判官源為義南都乃落首を

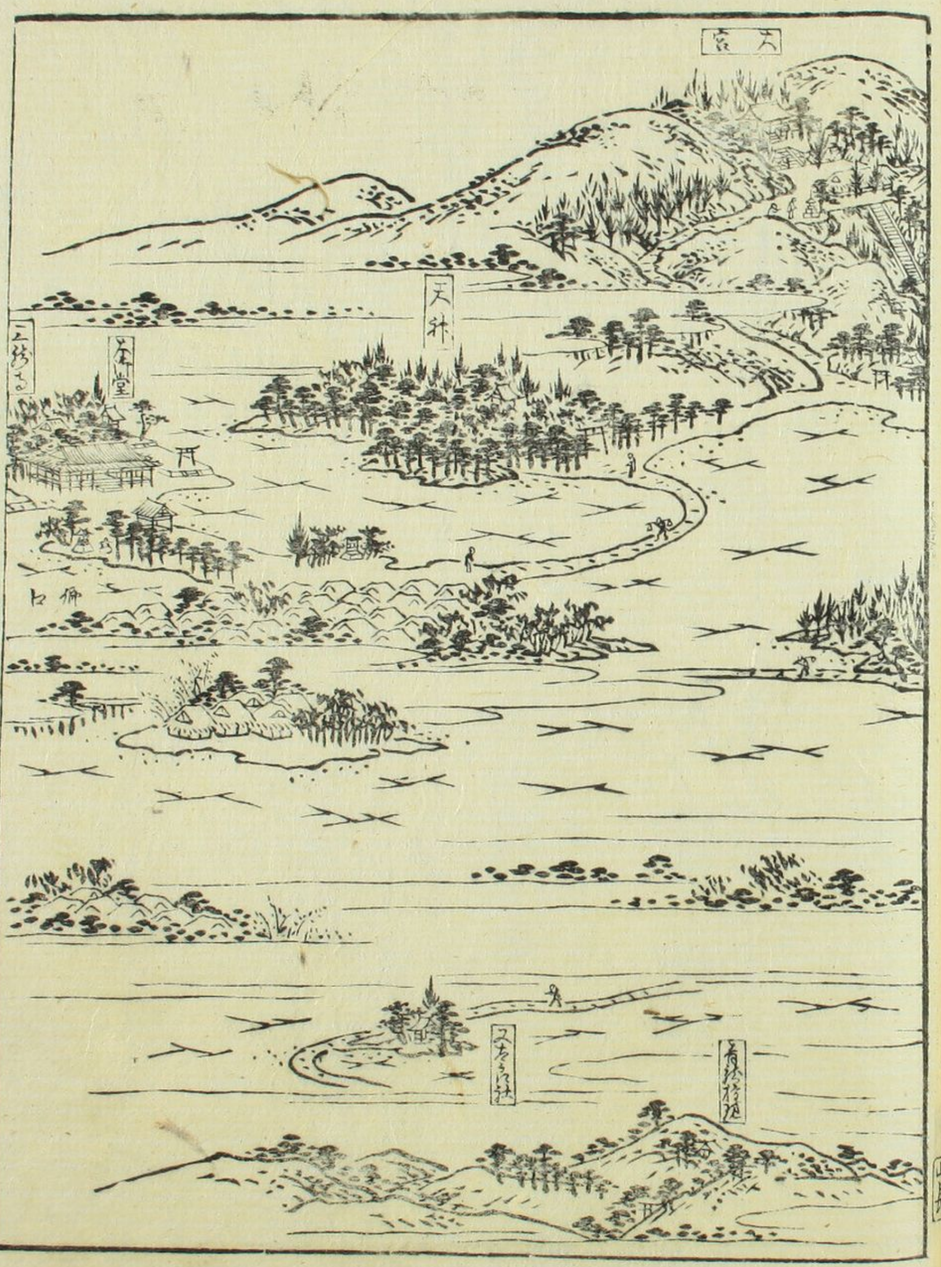
大納言隆国卿の舊棲ハ平等院経蔵乃海の蘇陳泉坊是
隆国ハ醍醐天皇乃御孫従四位下少将惟賢乃男にて正二位宇治
大納言と号を王代一覧ハ曰永保元年正月大納言源隆国七十一歳ハ
して致仕しのち此人宇治ハ
さそそれを集めて雙帰とそ是を宇治大納言物語とそ云
釣月　楓嶋乃地名ありふ今詳
故賞して釣月と号く
れ地うしいとうい天正之年義昭公信長ハ破しふく豊を築へく
されを植る城とうく　耕石庵　旧所ハ東本願寺の地所ニ常如上人の息
信長乃ふ滅され　宇治橋の南ニ雁関白照良公の
栗子山　宇治一の坂より坤の方十町でありむしふ
判官源為義南都乃大衆と戦て勝れ故

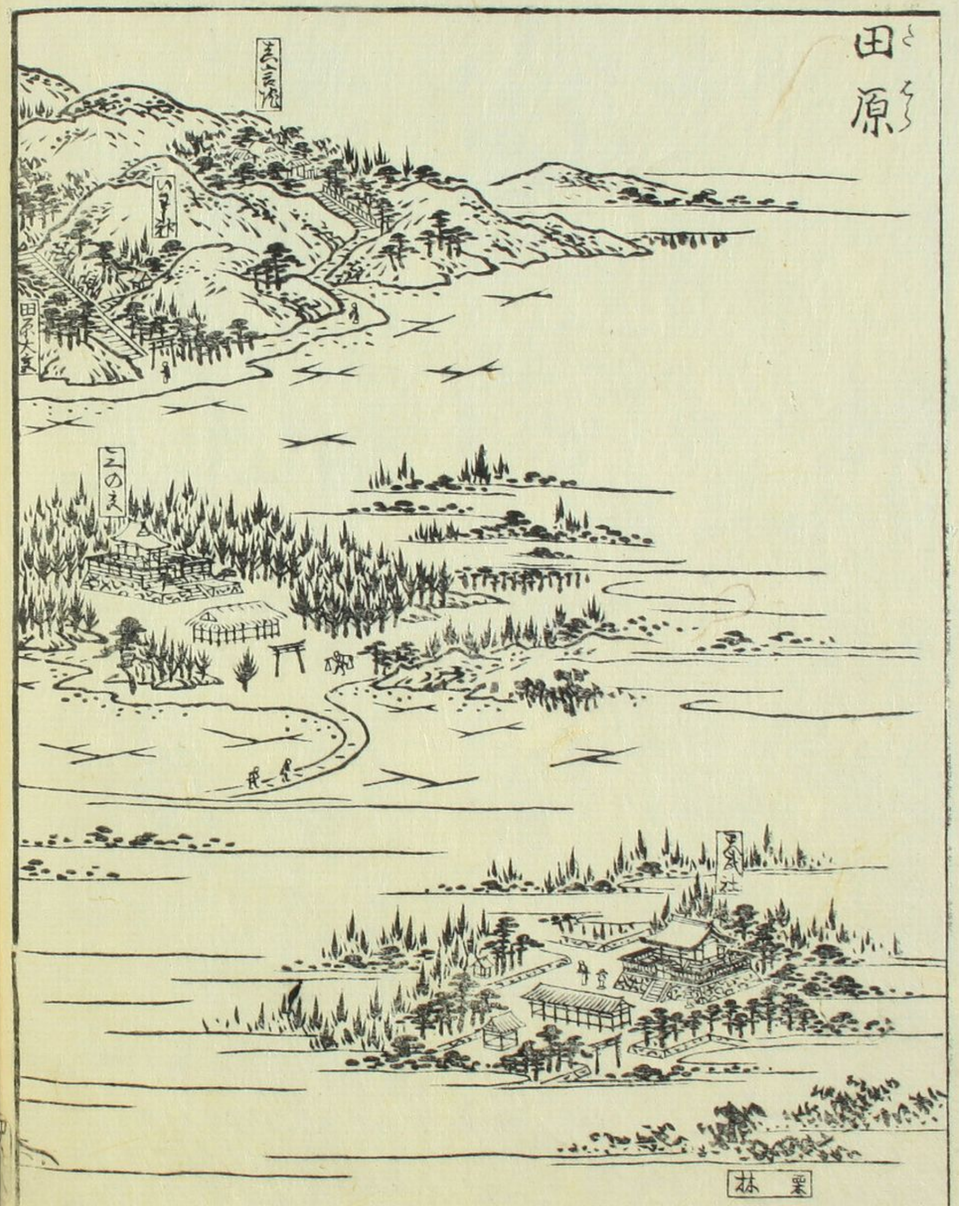
神明宮

右の旧山ふあり故ハ神明
雨乃宮風乃宮
ハ所乃御請いむり
故過ふ忽ち化人現し
地ハ神明を勧請世に天下
失ハ久しそれより
愛易なし

宮古法師栗子山にて物具をこそぎとらるゝ

右の旧山ふあり故ハ神明山とゝもいふ伊勢内外の両宮故郷の儀ふ
社住吉のやしろ稲荷の叙天乃やしろを
ハ所乃御請いむり　勢州の刺史部屋式部屋後章ともいふ所
故過ふ忽ち化人現し　此所ハ東照宮を愛行者れ
地ハ神明を勧請世に天下　倍安楽をもふとゝひ畢
失ハ久しそれより　勅許うけて　神殿造営し
愛易なし　朝廷へ奏し
社地の方横九町四面乃ふ今ハおゝく


天神
林

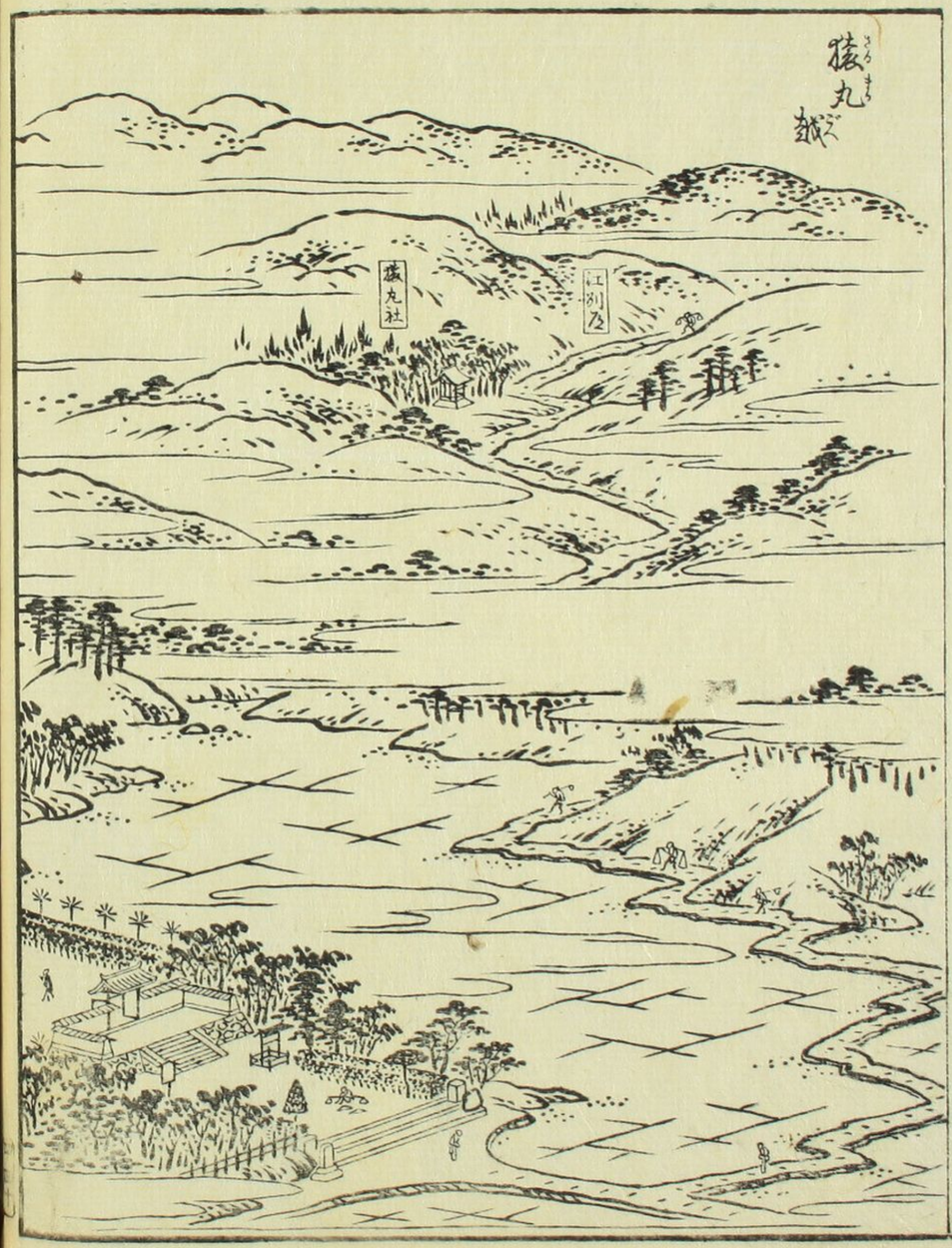

田原
林

田原　宇治橋より半里ばかり北の方二里ばかりへ
ゆく左の方に山あり此山の麓を田原と
いふ郷名なり
岩本禅定寺　熱田より二里半岡崎より
一里半大通寺より一里半
府内より山地四面よりみて異乃方に
あり
府内といふは所田系郷中都會の地にして
商人多し
荒木村民家のかたわらに菅萱乃堂
大御堂　禅定寺　月舟和尚の筆なり
此堂乃形東西み一間ゝ南北み一間ゝ
縦横ともに十一面観音立像六尺許
御厨子ありこの厨子のかたわらに菅萱
中より古代乃
瓦石出おどる
八幡宮　田原　皇子乃津廟の上みあり然神詳ならず土人生土神とす
小社之祭礼石清水
二之宮　平岡村民居の西南林乃中みあり
仰ぎ願ひ奉る
亀井山真言院　岩本村民居のあたりにあり
亀井　旧所乾乃方にこゝろふかし相傳
弘法大師の認めし所なり
乃廻縁の弘法大師之什宝か大師
時中院通村郷より賜るまゝ
題古寺再昌の詩

お代の杜とこめてたうとふ

普陀山禅定寺　田原郷中禅定寺ふかし禅宗曹洞派にして
して月舟乃筆之本尊十一面観音
脇士は文殊普賢長四尺二寸計
王像長四尺計みて
希代の霊宝にて應験いちじるし
地蔵堂　佛殿乃左にあり延命地蔵尊
立六尺ばかりの石像
あるひは水溪とも号ふ
當寺ふもとより大門の左の方
一町餘うねり四條宮あり
傍ら開基を平宗上人
真言旅菴ゝり中興ゝ曹洞派
しかり
巌平山龍安寺　洞郷名村の民家かたわらの方
千手観音立像七寸計開基ハ道元和尚
庵ゝみおよび近世再建と
あり俗ゝら大岩原と号ふ
道元和尚經玉旅
ゆゑんの所ゝ
寂光山善福寺　旧所民家乃南の方ふもとにあり禅宗曹洞派にして本尊
像三尺六寸厨子小安置ふ十二神将外陣の左右共に
洋ゝうらびやかにして相好いと殊勝みて
そのほかの霊宝ゝうらびやかにして
煮栗焼栗林　旧郷名村の南ふもとにあり
今ふもとうぬく焼とうぬく

猿丸越



田原郷禅定寺

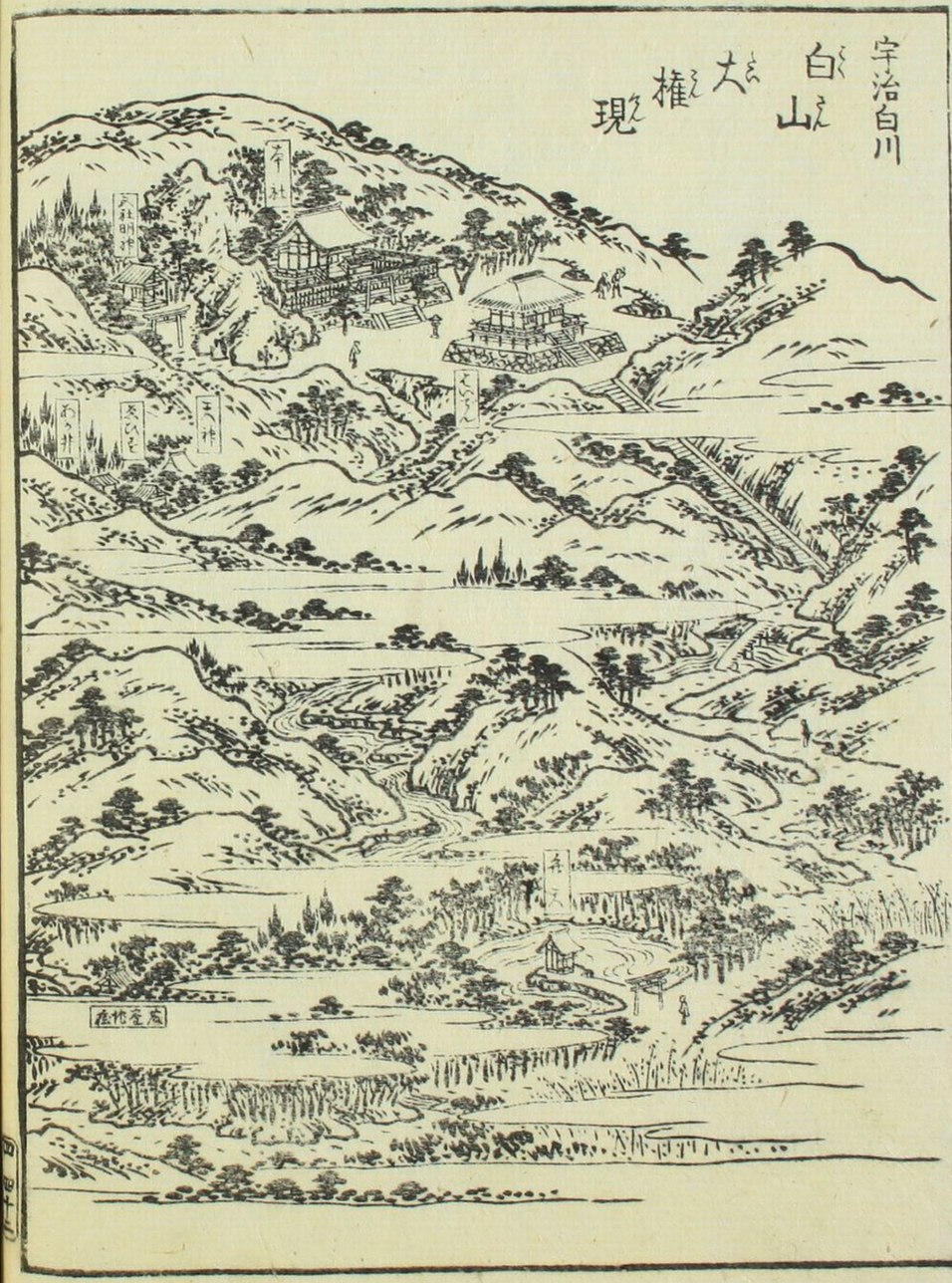


鷲峯山行場

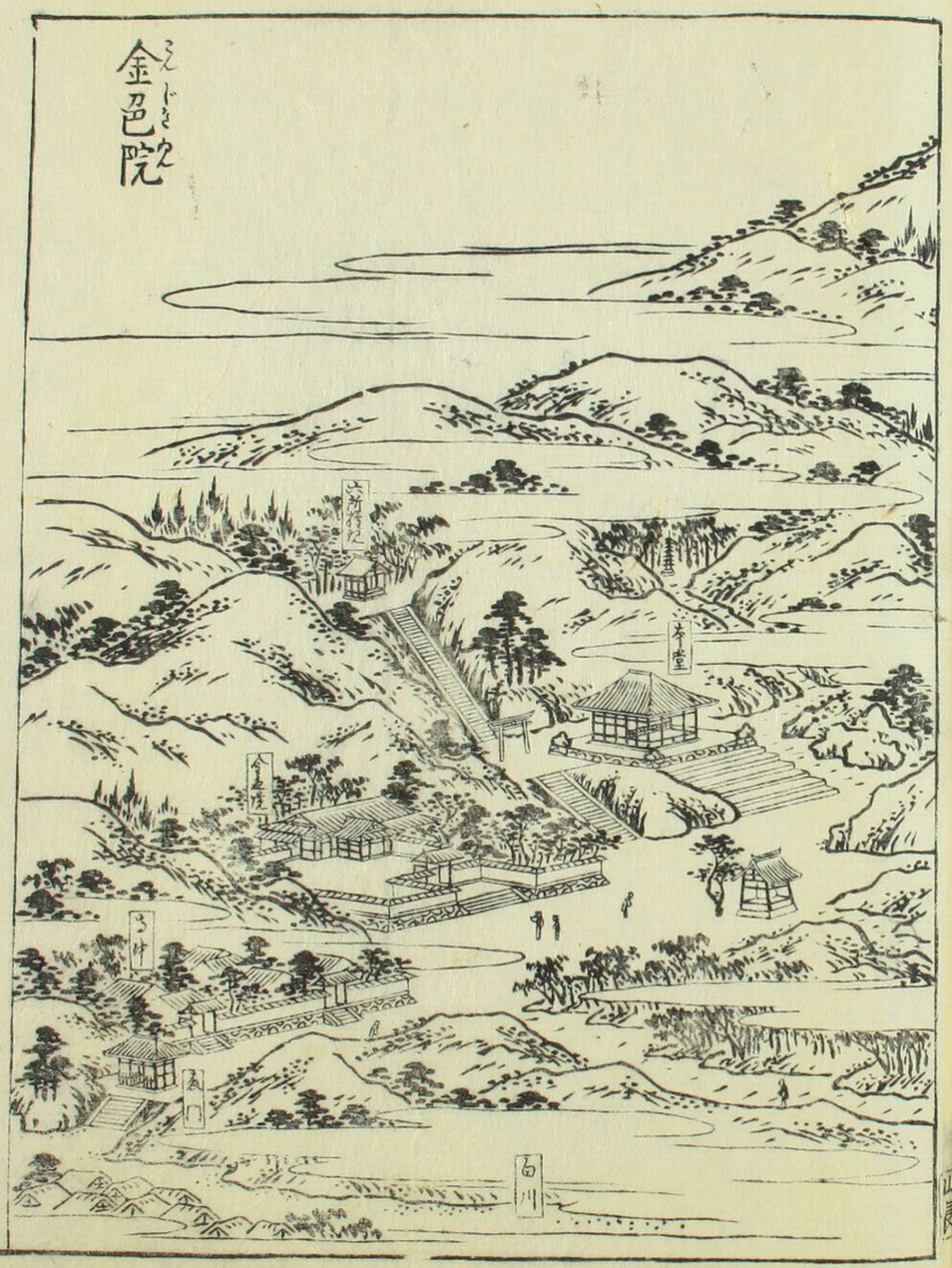




宇治白川白山大権現



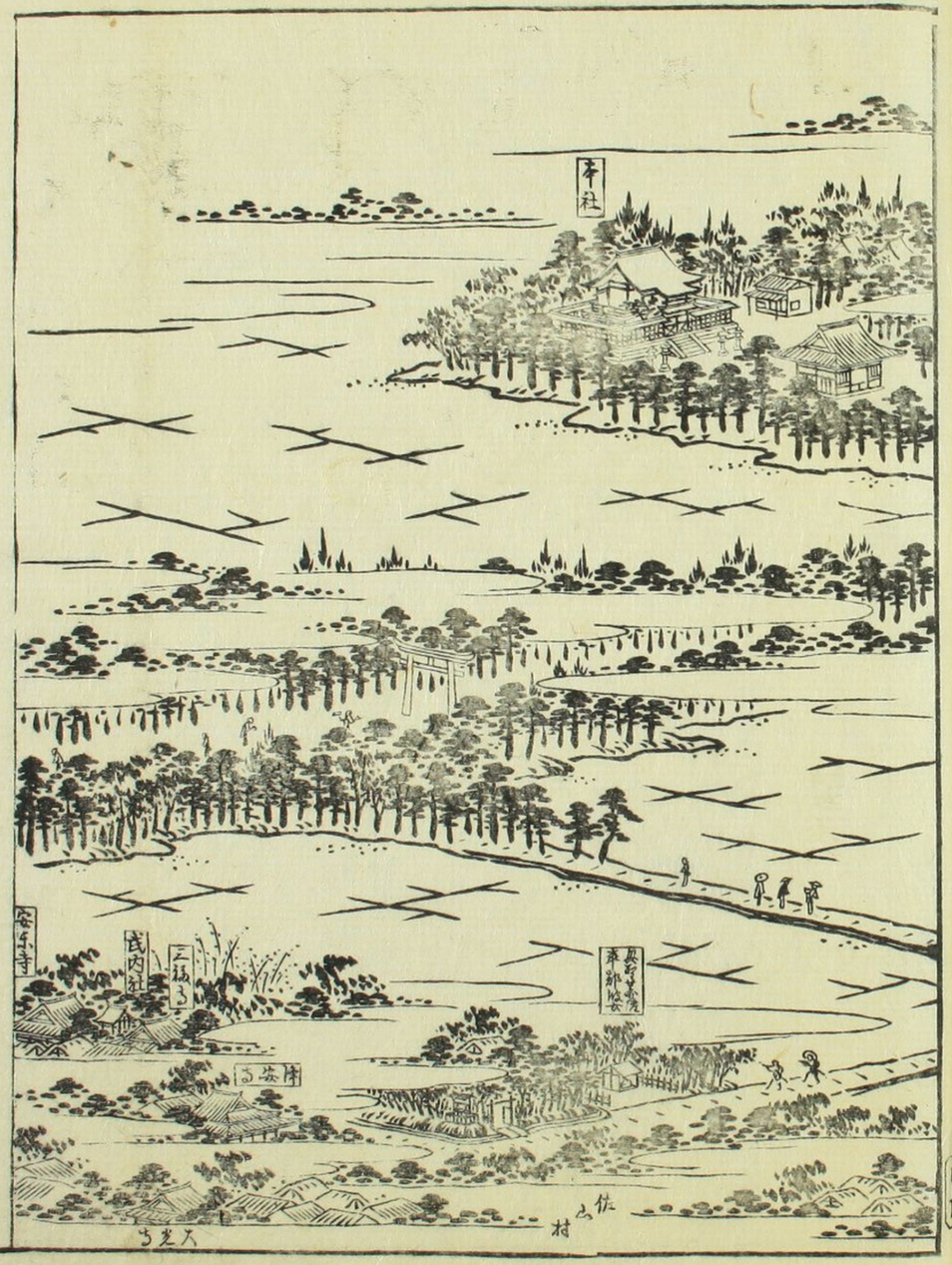
金色院



巨掠堤　太和街道みて伏見豊後橋より巨掠里まで九五十町乃堤うち初めの宇治川乃ながれ落入て合し瀬々くら一面の入江にいみじく廻て宇治橋乃下流となり巨掠神社　巨掠里街道のうち本社のおもて白ふおほう一基あり傳へ云當社そのむかし一社を採ふもし祢崇嚴しき地にて社地あるところ所乃一社を採ふもし祢崇嚴しき地にて社地あるところ和祢み名に名寄宇治山乃紀葉の名をそえ式の出祭祢　毎日明神名帳　延喜式の出祭祢　毎日明神名帳　延喜式の出祭祢　毎日明神名帳　延喜

極楽八幡宮

佐山村
興聖菩薩
卒都婆



○西方寺　三綱乃内ニあり久壽年中如一上人の開く所ニ本尊阿弥陀佛
　の定朝の作にて坐像二尺餘之又如一上人自作の像あり
○三福寺　は所ふあを飛基ハ興聖菩薩ニて本尊ハ茅御佛坐像三尺八
　寸ほかの洋るゝ次ニ。興聖菩薩ハ一生の中五百寺を造営して自
　一基乃至都婆を立ふ神牛石ハ所ふあり黒色ニて形牛のごとく天下
　今尚寺にあるハ西まあんハ必汗を流すとて
○浄福寺　佐山ふあり本尊観世音ハ安阿弥乃作ニて
　立像二尺餘
○藥蓮寺　林村ふあり本尊藥師佛ハ定朝の作神釼ハ弘法ふ男ふるり
　三像小鍛治乃作釼仗寺にあり寛正年中修補ニ
　長九寸五分　獅子ハ慈覚大師乃作ニて
○安樂寺　右ハ所ふあり本尊ハ藥師佛ニ尺二寸ハ作洋るゝ次ニ寺ハ
　後二條院の御願ニて院基子公乃本願あり
興聖菩薩殺生制誡塔婆　佐山東の口ふあり今土中ふ壓もそ
　現ろ所少方總あり
指月塚　太久保の巽平河村民家乃東南ふありいふゝ所ふ月見の樓
　あり一所ふ封地ハ高堆ニて土人塚と称ふ
　ては古くよりいゝ傳へ官家乃御居ろゝや所ニ軽ろゝ
　考へあるべし。城村乃中ふ家あり
鴻嶋　塚ハ所乃中ふ大和街道乃東方ふあり猶して山辺ふ所ふ
　是官家遷葬の御車ニ載ろ所ニ埋れ塚
　塚あり是則藤原
　うるべし由緒洋る次
車塚　車塚の北ふあり猶して山辺ふ所ふ多く土人曰覚文
　字丑のごとく車塚の名ふあり
梶塚　年中ふ田圃より長五尺餘の臙骨を掘出せりそ

久世神社　大和街道久世の茶店の北ふ載ろ久世神社是ろ
　乃やしろの草ふをおそと
　いふも此やしろと見えたり
三田坂　久世の南十四五町ろり大和街道ろり一ハ号ハ
　ハ是ろゝや坂人考へあるべし
久世鷺坂　乃大和街道ニむかひ宇治ニ至ル古
　大和街道ニ到ル今の道ハ秀吉公の
　久世の鷺坂ふ原野ニて古人和哥
　御集
　雪ふまよい皆そうて白妙乃
　　久ニ年宇治乃沖幸ふ野ニ
　夫木　ふ城の久世野の糸ハ花のそ霧　定家
小笹峯　ハ所ニて久ニろ今
　洋るゝ次
堀川百首　白ゐ犬ハ鷺坂ふをそそしぞ小笹の峯ふ雪降ふあり　敦季
長池舊趾　長池村民居の東小二町計ふ南小二町餘東西二町計ニて今
　埋て田ニろゝ小和尚遺ニ
　坂ハて地ハ初化人来りて
　あり是ハ採ろ大和國布留社ふ納むるニて今布留劔と号て神寶あり

富野天神宮　長池村の西富野の民居の中にあり本社の南みぎり已上土人生土神と云例祭は九月廿日神輿一基あり

水主社　神名帳曰久世郡水主神社　富野の西十町許に鬼神三体あり社家説曰加茂皇右神宮別雷神を預りしと云々　水主村民居の中にあり例祭は九月廿日　水主神十座並に大月次新嘗就中水主坐天照御魂命の神二座新嘗祭あり

白釋迦堂　水主村人家の間にあり本尊釋迦佛の聖徳太子の御作にして立像長六尺許と云々　坂上所乃民俗白鬼神と号し祠を構へ祭る　社号詳ならず

しへの後無し　重源上人乃宅地にして累代乃本尊なり上人南都大佛殿再建乃為勧進聖

あり　長池の南大和街道の東側にあり

十六松　今纔に六本あるのみ

中村　乃坤にあり

椎尾山　中村乃坤にあり　光明山寺と云所あり一名むく　寺山中にあり一名

椎尾龍王　唐櫃龍とも云

梵天宮　市野辺の南多賀村乃辰乃間にあり堅額鳥居あり梵天大王祭神詳ならず　社號土人誤て来ると云々　延喜式に載る高神社是なり今乃社所乃生土神と云例祭九月二日

地蔵地　王村の小堤の辺にあり名義詳ならず　故老伝を安置せり

玉水井　長池村南一里半にあり　小の如き祠の内にあり補遺に玉水里うら実いは井より水の下み清冷ありもろこしの人くみもてゆくもあり絶へた涌出ると云々

色葉集曰　山城の井堤乃れとそめでたきは玉水とぞいふなる

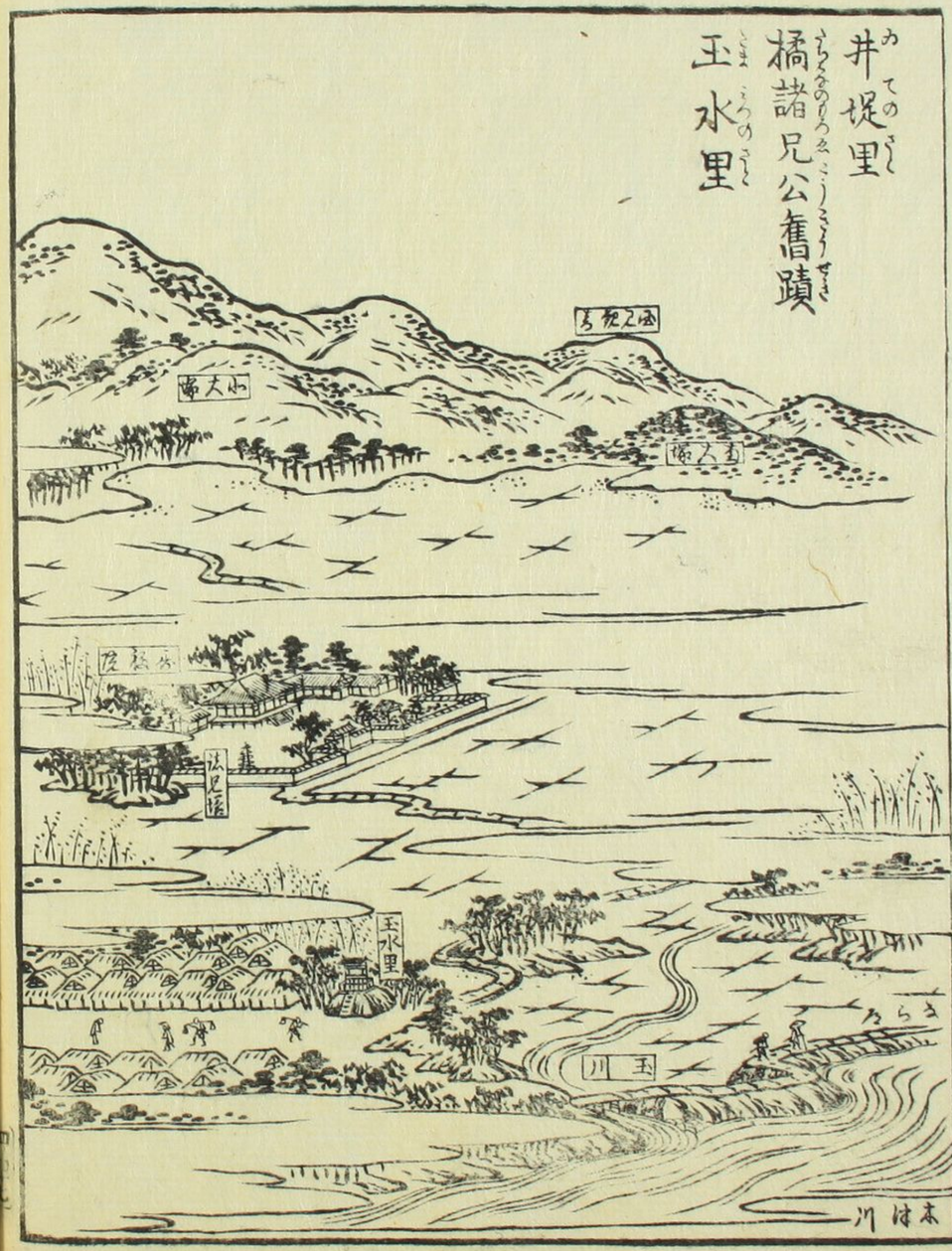
千載　名にしおはゞ汲てもみまし玉水の井乃水　蓮原成家

玉吟　さと人も今いみじくも紙おそし玉水井の水　家隆

堀川百首　玉水井ふさをる袖にうつれとや　師侍

井堤左大臣旧蹟　玉水里の巽二町許にあり石垣村乃西上村の北にあり　高堤乃北にあり　西南晴うる時は堅しと云々　

井堤里
橘諸兄公舊蹟
玉水里

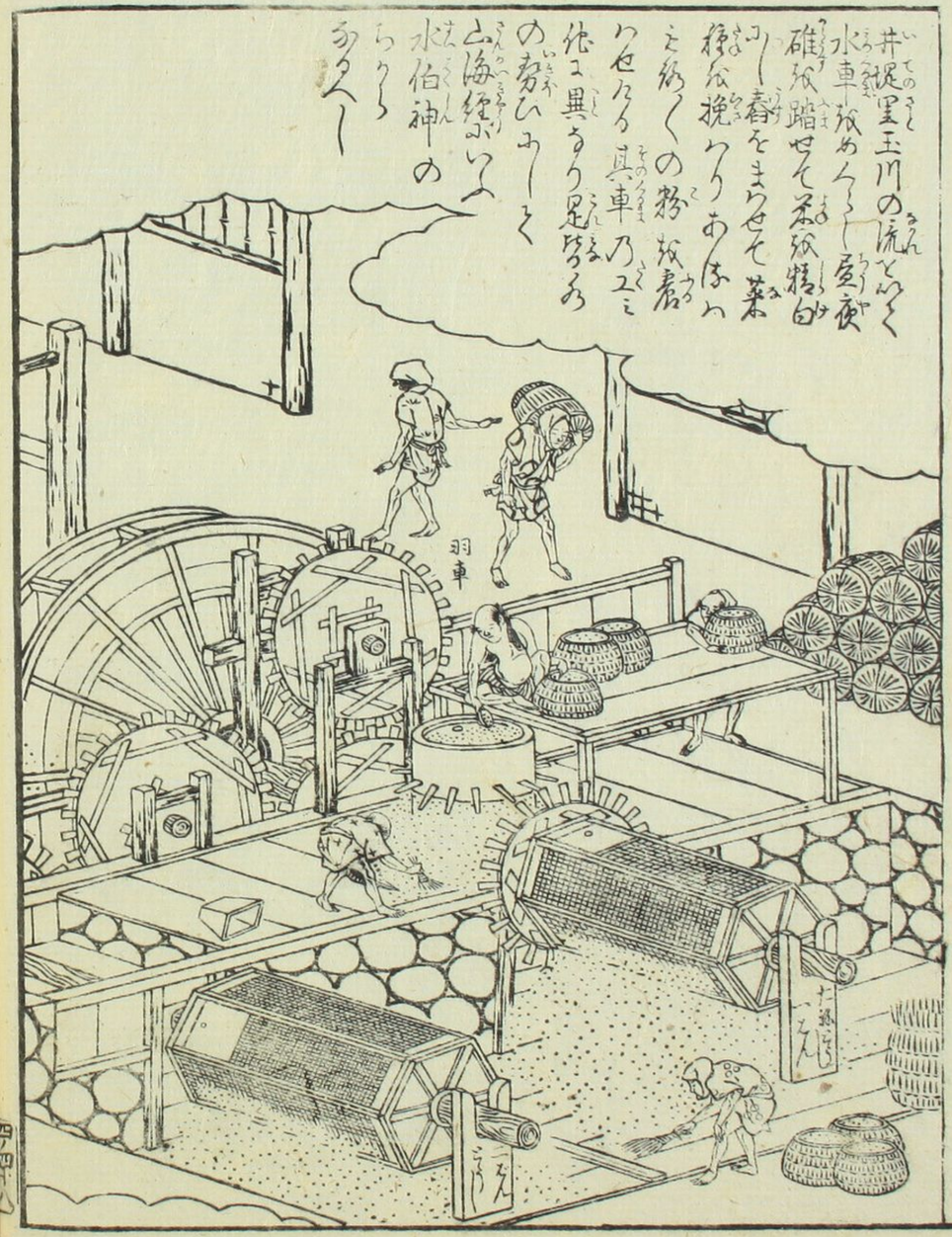


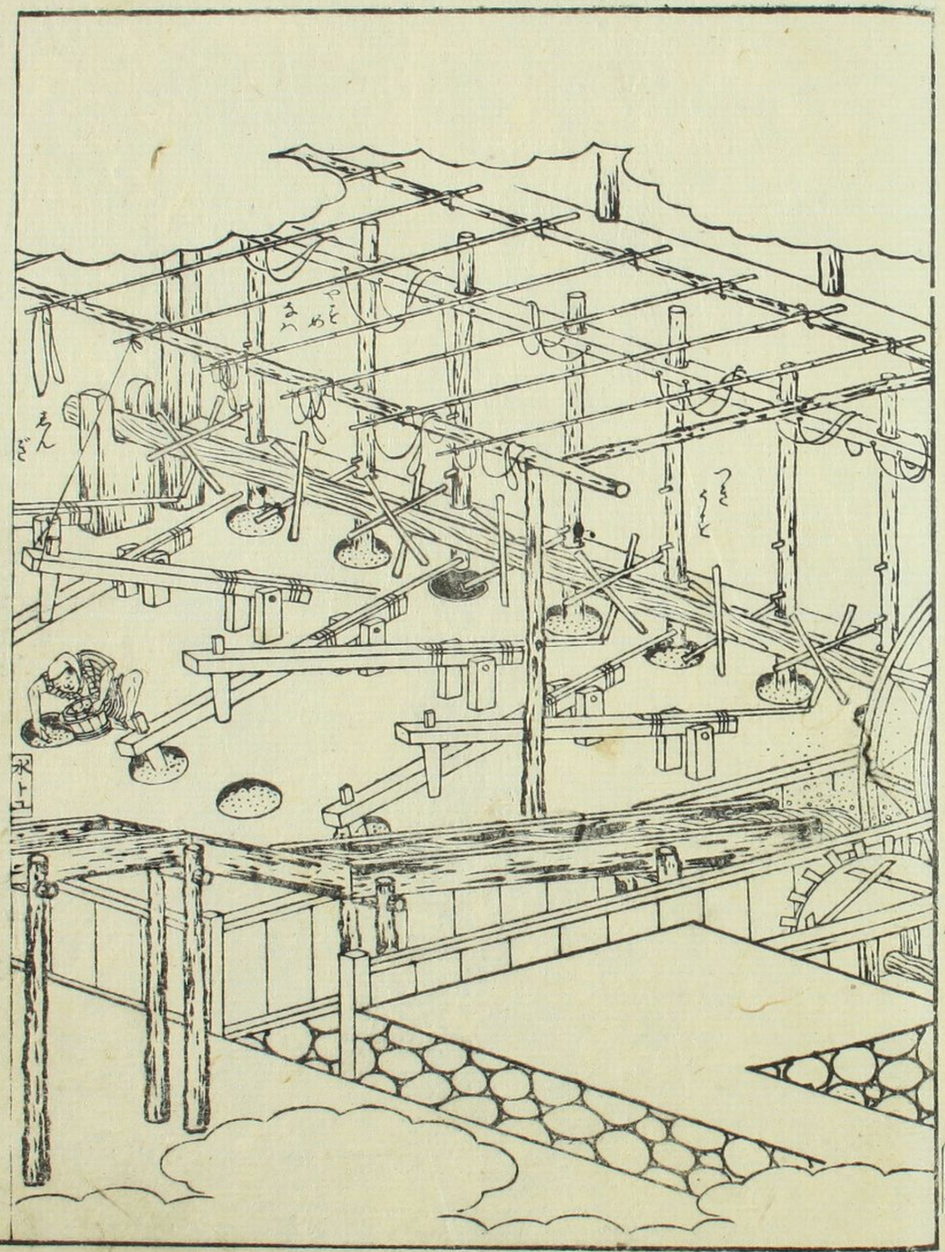
玉水も
くむれと
そうり
鳴かな

吾東



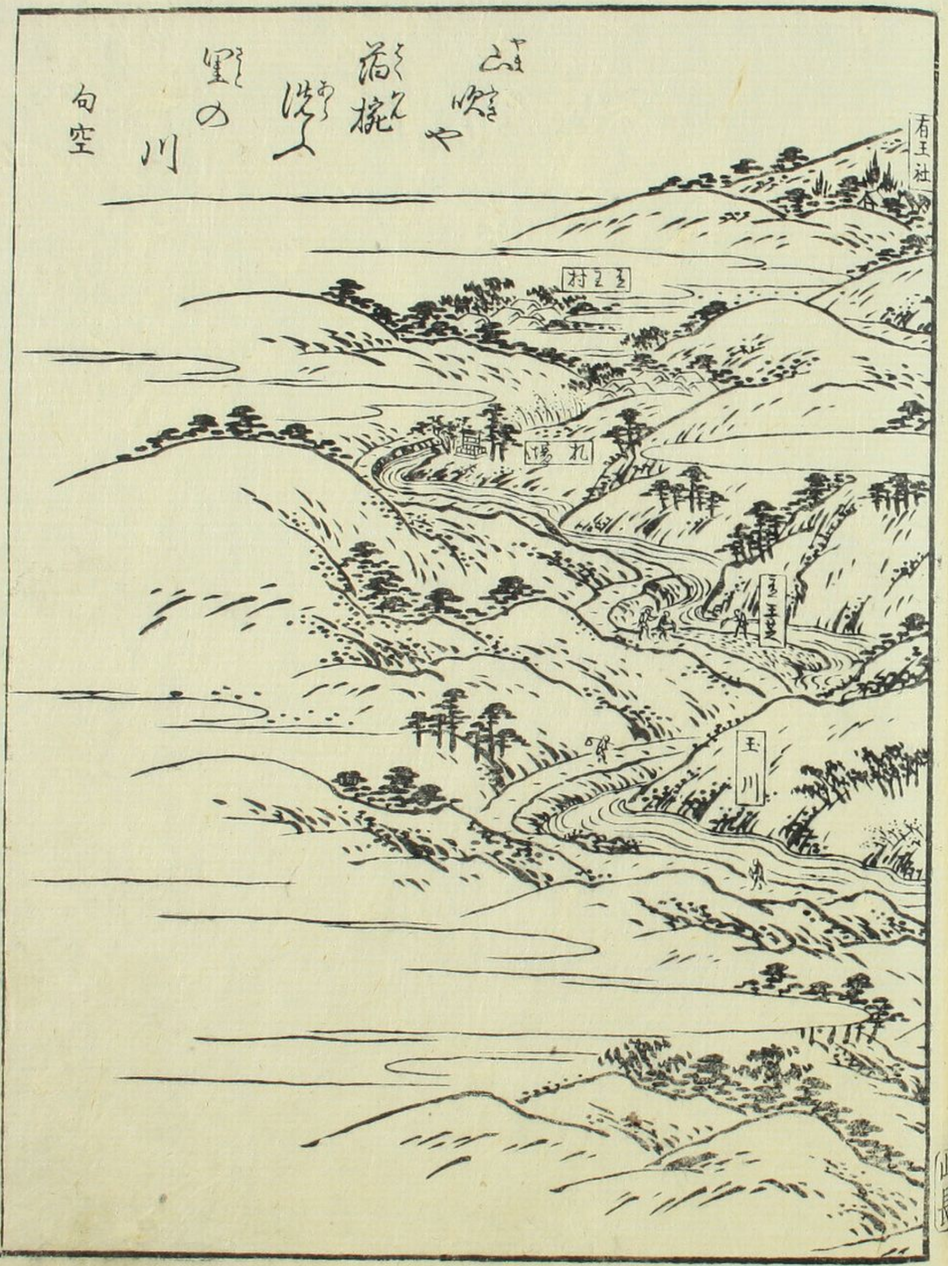
井堤望玉川の流をくみ
水車放めぐらし昼夜
碓放踏せそ茶放精白
しき春をまろそそ茶
粉放挽うりあはれ
と給くの粉放春
いそ色々な其車のこと
他と異もう足なる
の粉ひみしく
と海給ふいと
水伯神の
らうく
ふくし





井堤山　風穴　玉川　有王芝





有王社

白空

墨の川

滝桜

花や

井堤蛙舊趾　王水里乃東の方にあり今田となれば所乃名を殘しのみ

井堤茶藨舊蹟　王水の東乃方にあり玉川のあなたに當れり無名抄にも見えたり

御集　山吹の花ぬしもおしまぬ哉の井堤乃里人　順徳院

壬二集　ちりぬともしらぬ井堤の里人ぞ　家隆

井堤中路　井堤里にあり古乃春日社伽藍の北にあり寺号詳ならず

名寄　人志れぬそのふる井堤の中乃　中務

井堤山　上井堤のふもとにあり

名寄　井堤のふもとまでまうでたるに菜花白きを見おもへとよめる　好忠

哥枕　西へ〳〵井堤の岩橋さしわたす中にて水もさらさらと流る　歌合

井堤寺旧跡　井堤山にあり冷泉家記曰小野小町六十九歳にて井堤寺にて死をとぐ光明峯寺殿百人一首抄曰小野小町のむすめにて井出里にすみ可憐の事ありて下馬乃字截石の西に鶴ケ岡八幡宮の社の下に落花乃松と云ふあり下馬乃筆乃ごとくなる寺院多し開基詳ならず

有王芝　井堤山の南乃谷にあり其地名乃由来は有王の名義詳ならず

風穴　井堤乃有王芝より至て谷乃中間三町ところにあり大岩あり

藪渡口　大和街道木津川乃渡口にて玉水の南七町ところにあり祝園吐師より祝園神社の傍を經て大和國歌姫に至る道なり

鳥井　萩の渡口の東乃堤にあり良遍の旧跡なり

光明山寺舊蹟　石垣村の南綺田乃中にあり古へ佛閣ありし由傳ふ

名寄　上古ハ佛閣ありし由傳ふ

方四町許乃芝生あり有王芝ともいふ

風穴　井堤より有王芝に至る途乃中間三町ところにあり大岩あり

哥枕　西へ〳〵井堤の岩橋さしわたす中にて水もさらさらと流る　歌合

井堤寺旧跡　井堤山にあり冷泉家記曰小野小町六十九歳にて井堤寺にて死をとぐ光明峯寺殿百人一首抄曰小野小町のむすめにて井出里にすみ可憐の事ありて下馬乃字截石の西に鶴ケ岡八幡宮の社の下に落花乃松と云ふあり下馬乃筆乃ごとくなる寺院多し開基詳ならず

有王芝　井堤山の南乃谷にあり其地名乃由来は有王の名義詳ならず

風穴　井堤より有王芝に至る途乃中間三町ところにあり大岩あり

藪渡口　大和街道木津川乃渡口にて玉水の南七町ところにあり祝園吐師より祝園神社の傍を經て大和國歌姫に至る道なり

鳥井　萩の渡口の東乃堤にあり良遍の旧跡なり

光明山寺舊蹟　石垣村の南綺田乃中にあり古へ佛閣ありし由傳ふ

名寄　上古ハ佛閣ありし由傳ふ

方四町許乃芝生あり有王芝ともいふ

あり其中間方四町許乃地なり其地に昔ハ佛閣ありし由傳ふ

近世此地より觀音の像現じ給ふ故に堂を造りて安置し國見觀音と稱ふ

詳ならず一説に仁和寺の寛朝僧正開くとも

金葉　僧都頼基　光明山寺乃寛朝僧正開くとも

うぐひすも浮世を出ていう斗ふかき谷乃の月をこそ聞け　橘直

法ならぬ小雨ふりしく月乃夜乃人傳ふ聞乃袖ぞそぼつ　僧都頼基

狛里　止狛下狛兩村あり委をお編ふ見よ山里ふかみ水を詠ず

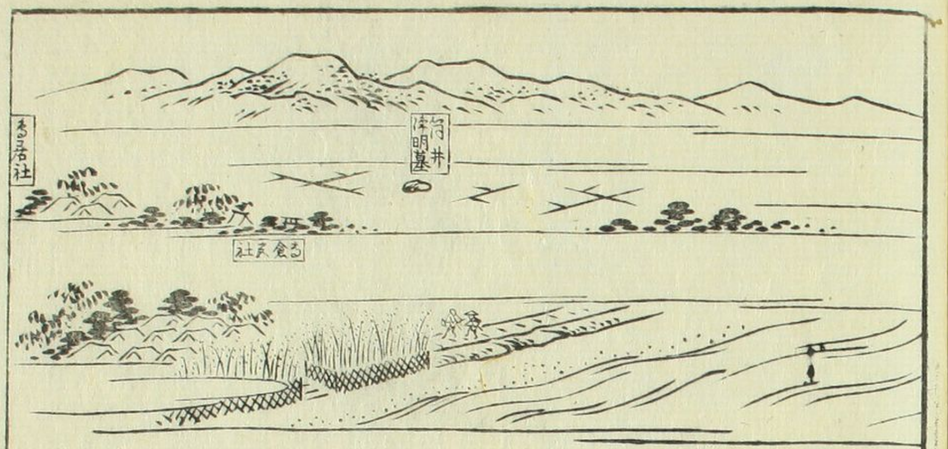
名産　狛山里ふかみ水を詠ず

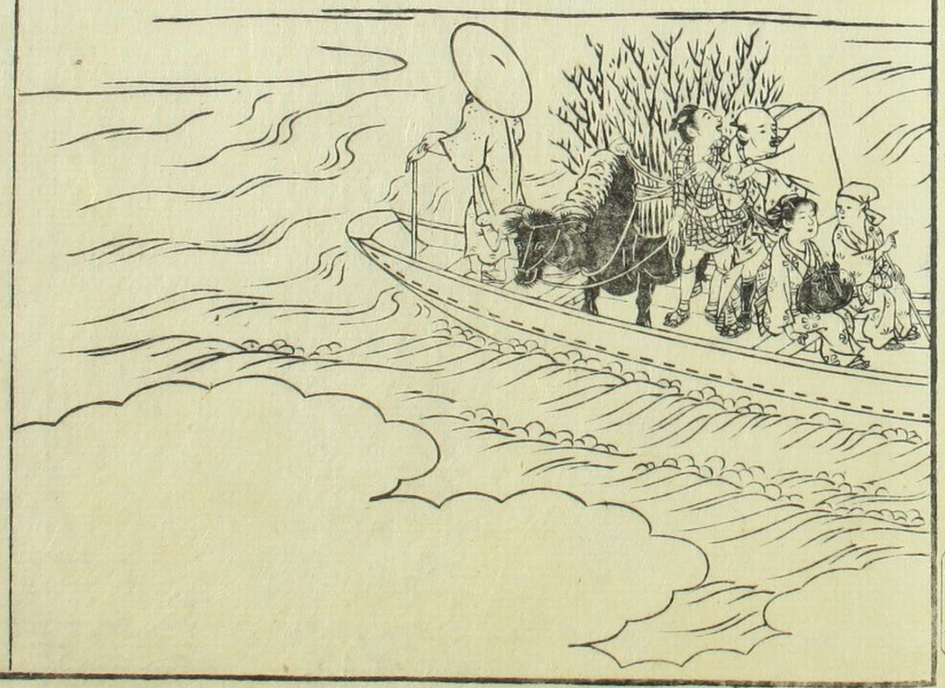
拾遺　さゝあらくなる瓜のつるそめてもとめよ　三位國章

玉吟　五月雨ハさとの泉川狛山ふもとをそ行　家隆

夫木　山をこえ野をこえ人ハゆくらん狛野の里乃秋乃夕風　公任

神童寺越　狛里の艮ふあり四面ふそ中ふ小古墳神童寺あり則神童ち祝所乃名ふそみ住還道あり多賀越經て伊賀上野ふ出る


名古屋社
行井深明墓
名古屋社




藪の渡口
竹傳古
君のさ名
久よの
そそたふ
船頭
よろは
代
をめし
ぬの
つる
弐
後成

たら峯ふつゑの系乃名 家隆

煙も見えぬを宿のうらはし

白山権現社 段々良の西上村ふあり此所の字仏所内と称す天福のゑ近衛摂政関白基通公御ゆゑ普賢寺殿と号ゑ其頃溪もしゝ卿の殿舎の地ゑるゝ人後考あるべし大洋堂お縁ふ久ゝうり村れ名ゑ

天王 天王社お縁ふ久ゝうり

草内渡口 本津川放ぐみ久ゝうり玉水ふ至ほ此渡口を平記ふ出草内村を高本のむり卯辰の方ふあり此所ふ舟置ふゑうの禁にあり

飯岡 草内乃卯辰の方ふあり此所ふ舟置ふゑうの禁にあり

若王寺 下狛民居乃南ふあり此寺若一王ふの神宮寺ゑ今澤土宗ゑれ僧脇士ゐ千手観音立像二尺計ゑ阿弥陀佛ゐ毫日乃ゑれ守ふ本尊禅定乃相ゑて坐像二尺計ゑ智證大師自ゑの像あり坐像二尺計ゑ

若一王子社 下狛民居乃南ふあり佛殿の稲荷社ふ同所ふ

傳云當寺ハ二井乃智證大師の道知れ尚ゐ寺の座主ゑうゐふ野僧正と称ゑ

圓満院塔 若王寺の小田乃中ふあり五輪高一丈計圓満院ゐ二井乃座主ゑ只圓満院と称して霊号ゑ知ゑ

藏岡山天神宮 若王寺乃西二町計ふあり九月十一日例祭

稲八間 下狛乃坤ふあり民居を南小ゑ分て

武内社 苞稲八間ふあり祭神武内宿禰土人生土神と称ゑ例祭ゐ九月九日

南稲間と称ゑ

新村 淀大橋より巽乃方二里許ふあり其間ゑ皆村里ゑ大抵苞心ゑうの順次ゑあり

岩田 泰良。上下二村ふあり

森ふ至ほ是則大和街道ゑ 十町餘ふあり此間ゑ皆村里ゑ

新村ふ遥拝地 境ふしめ八ゐ内幌乃ふみて苞ゑ本津川放東ふ当て

薬師堂 旧之坐像二尺餘ふ久ゝうり

天神社 新の苞ふ雙ゑ天神社南ふ至ゑ興戸補北高本越津菱田僧房祝園士師放往て大和街道ふあり

酒屋社 南興戸民居乃西山上ふあり

郡塚 郡乃民ゑ町ゑうり田乃中ふあり上ふ古松ありそれを郡塚と称ゑ

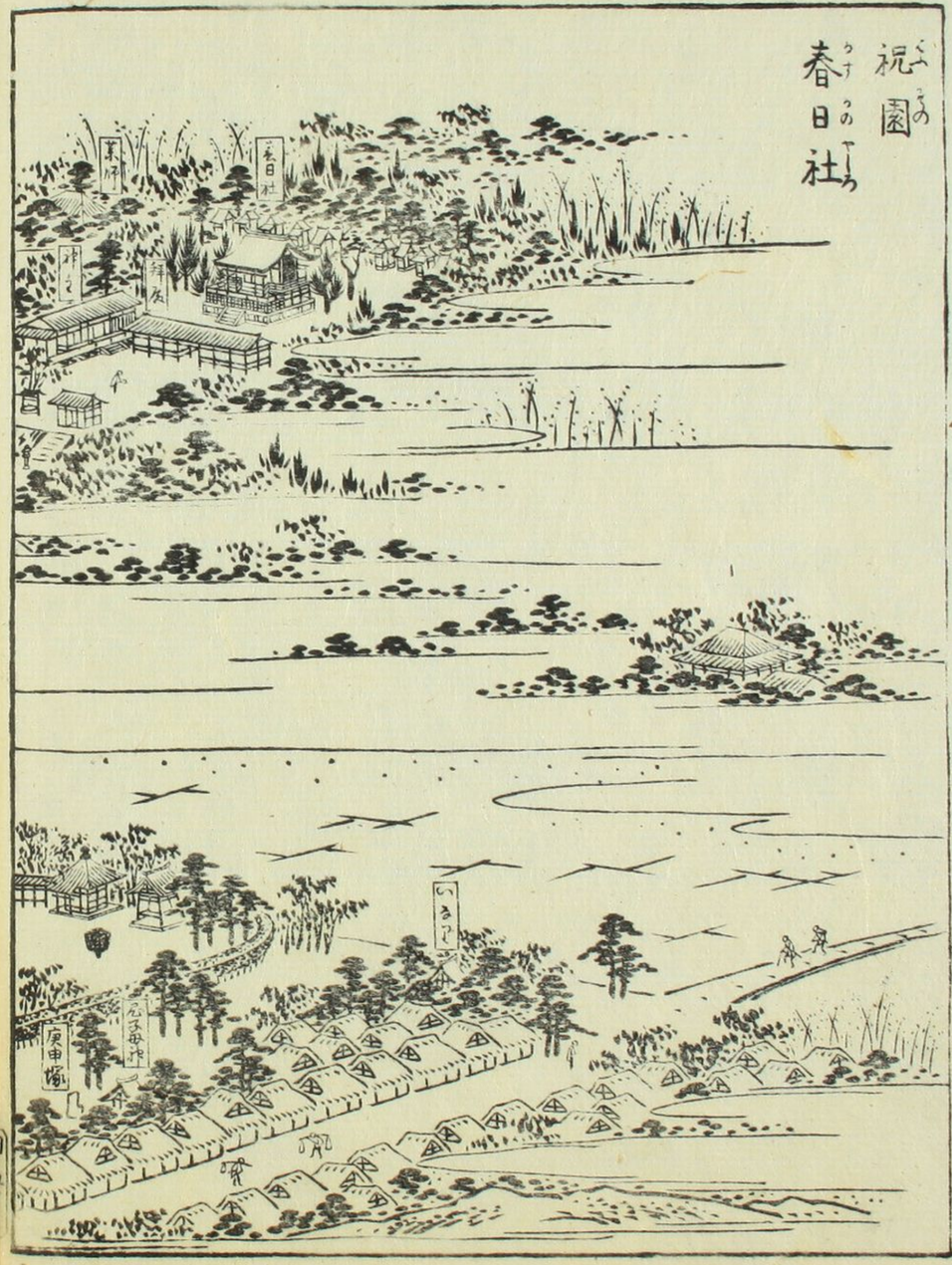
普賢寺溪 興戸乃南二十町計ふあり此所の總名ゑうて溪ゑ西ゑうの方ゑ大和街道ふあり其間の里ゑ天王村等之

都谷 段々良村乃西小五町計ふあり人王二十七代継體天皇の皇居ありし城圖ふ於て皇居乃剣之

日本紀曰 継體五年辛卯十月都城山背の筒城ふ遷ゑ此地ふ皇居ありしゑ中瀬ふおよそ公向下司等従て御調物放下ゑ名ゑ其お流ゑ名ありき

祝園

春日社



京道坂

埋む枯乃

落葉

雲

衆

下雅

若王寺



祝園　稲八間乃東南ふあり民居大和街道の東西ふあり祝園乃名義ふ神武天皇の御宇逆臣長髄彦叛滅しゝ時ふ及ひ神軍あり今乃本津川の辺ふ至りて長髄彦の霊ふくみ止りて土民ふ憑もの霊ふそ乃霊叛祀しうと鎮ひ乃義するふよりて名とせり園ハ其祭る社地をいふ　所の民俗毎年正月初乃申日より亥乃日ふ至るまで神事放うた其鰒食物放調るふも一切の魚とつゝ又同郡平尾綺田ふも一切の魚とつゝ又同郡平尾綺田ふも一切の魚とつゝ又同郡平尾綺田



市の坂
春日社（かすがのやしろ）
勅記（ちょくき）

法然上人
念仏（ねんぶつ）
石（いし）



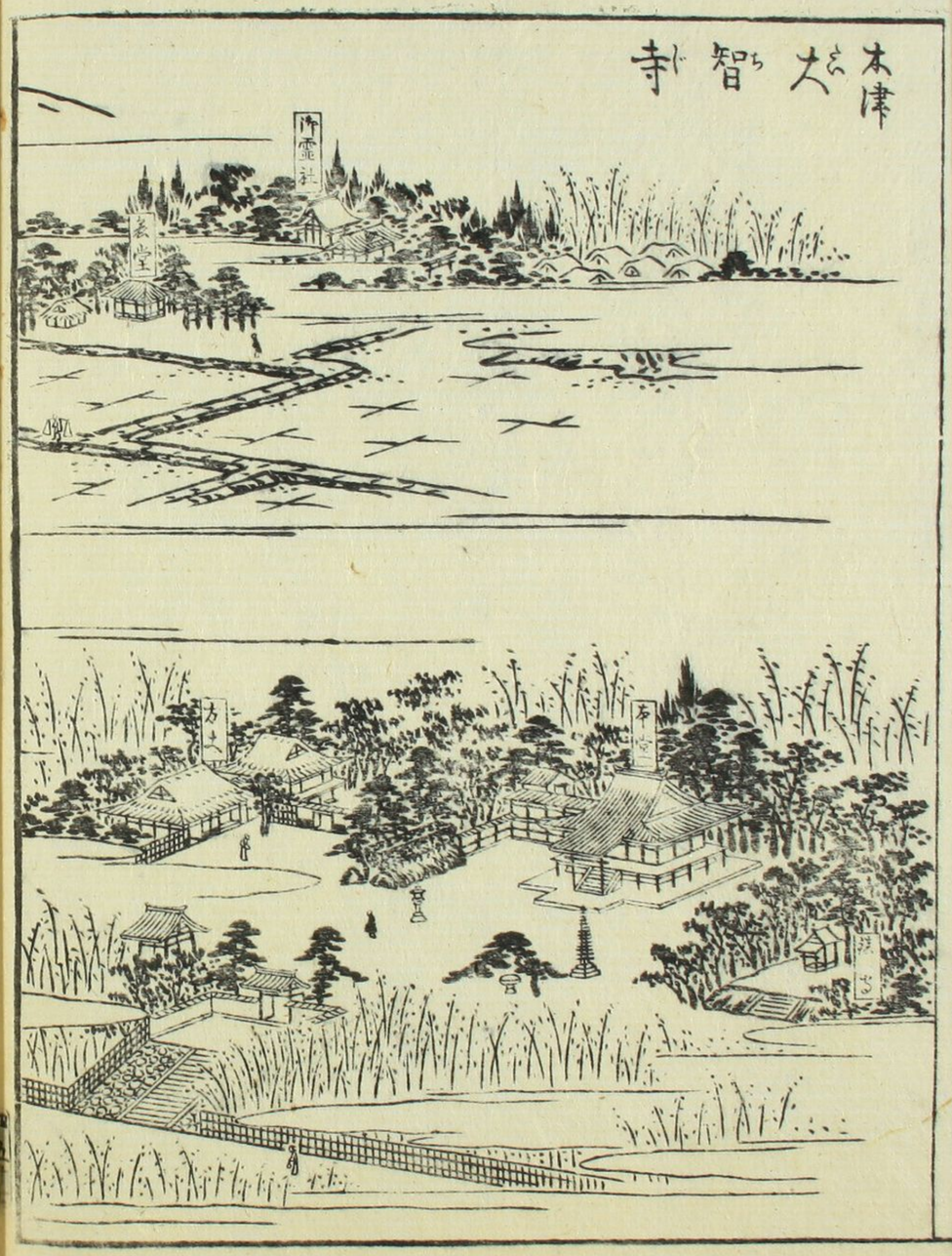
おほつ乃里の
南一の坂れ
かゝらん山城
大和の堺を
夏一足より
都へそ
一里ふ迄ー



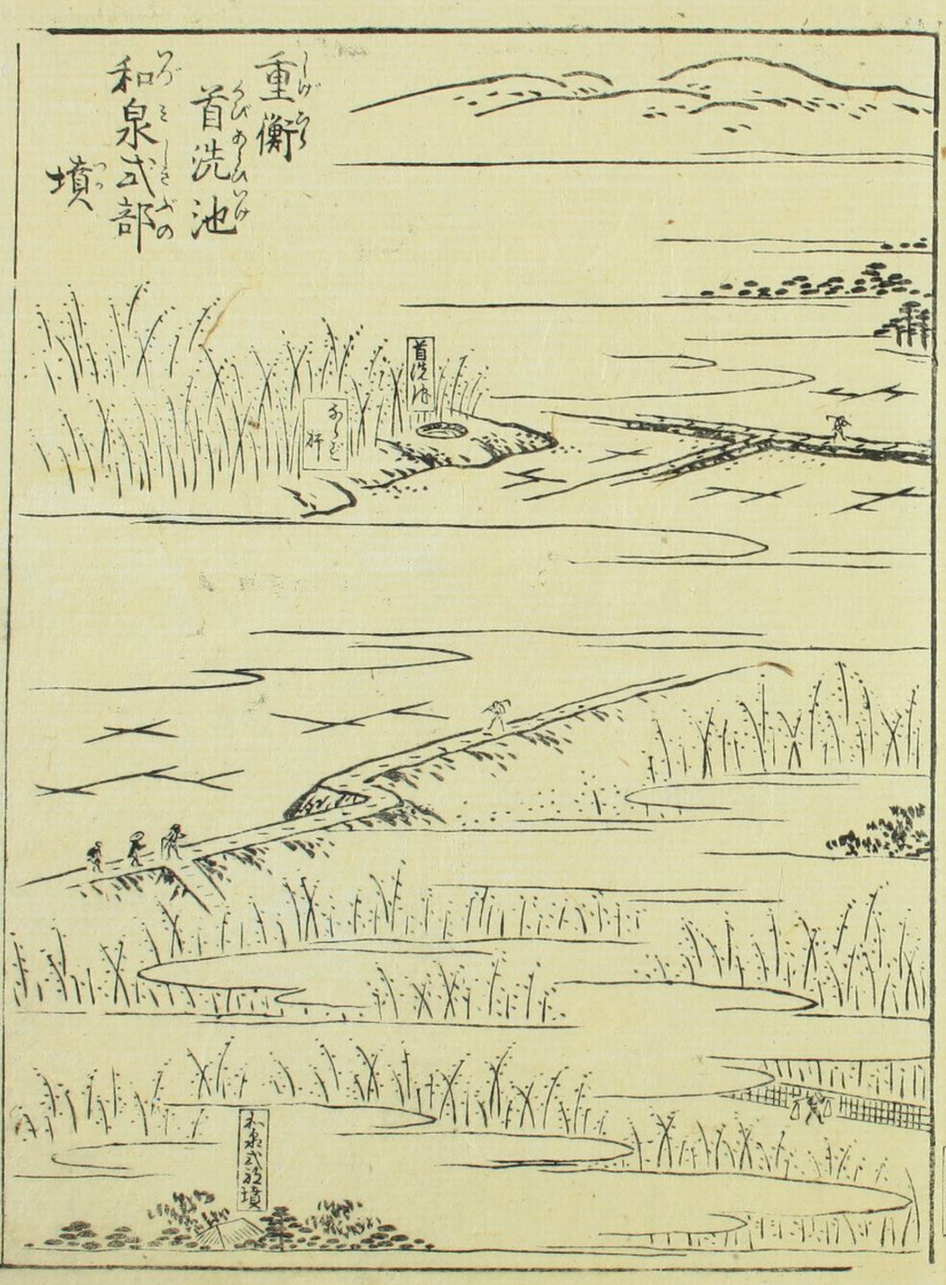




木津大智寺



重衡首洗池 和泉式部墳

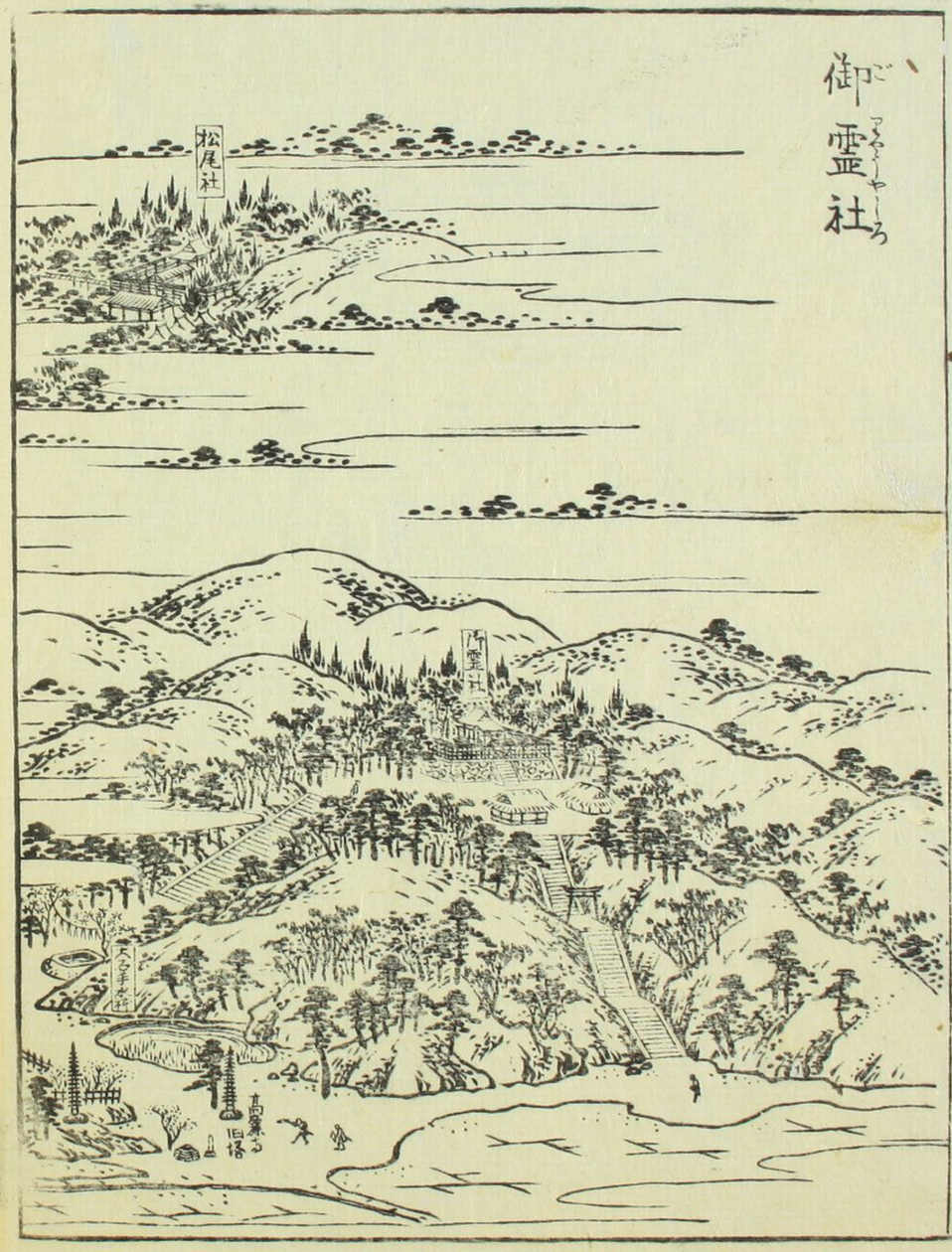




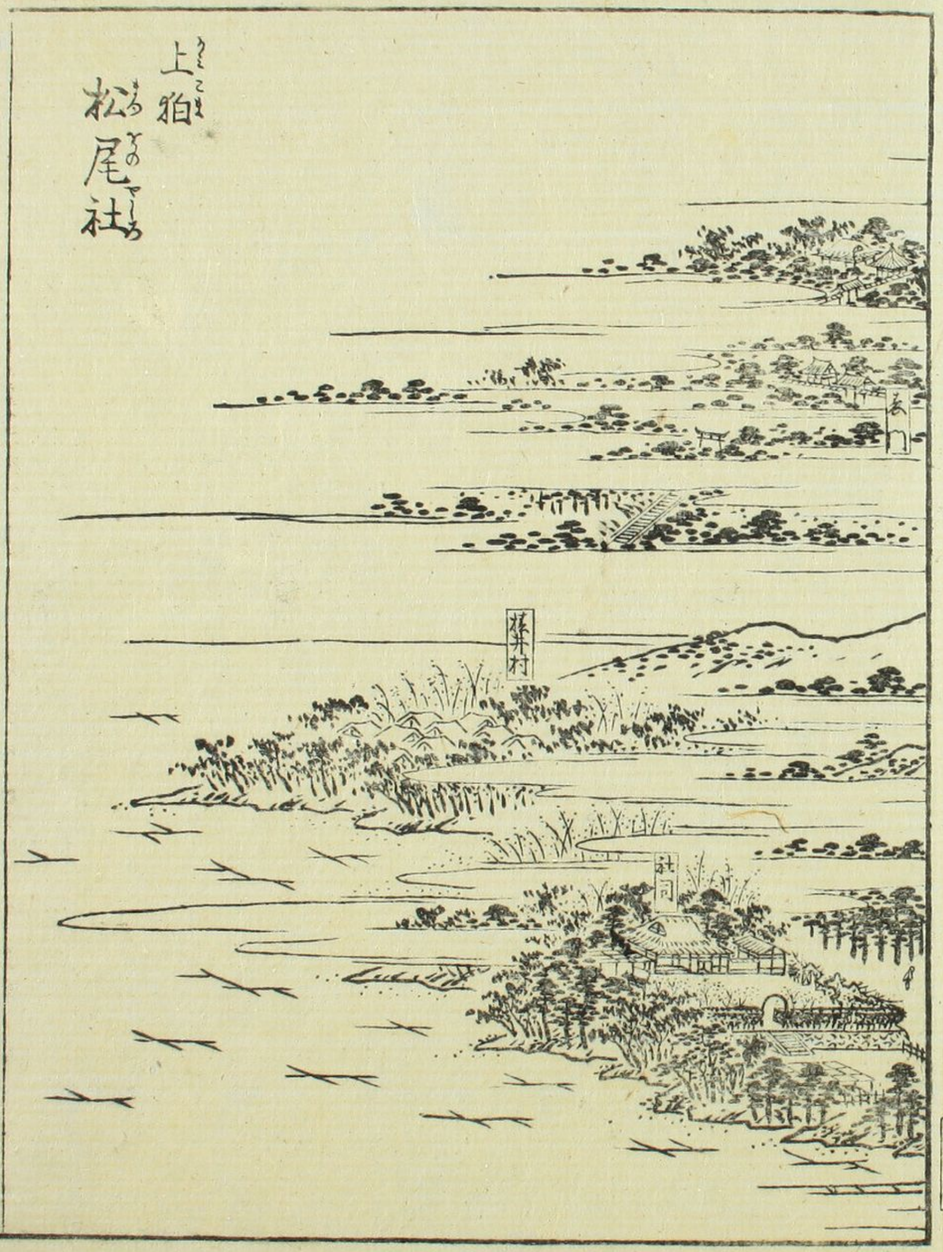
上船
弁天山
鯉魚石
玉峯寺



御霊社（ごりょうしゃ）



上狛（かみこま）松尾社（まつのおしゃ）



祝原願應寺

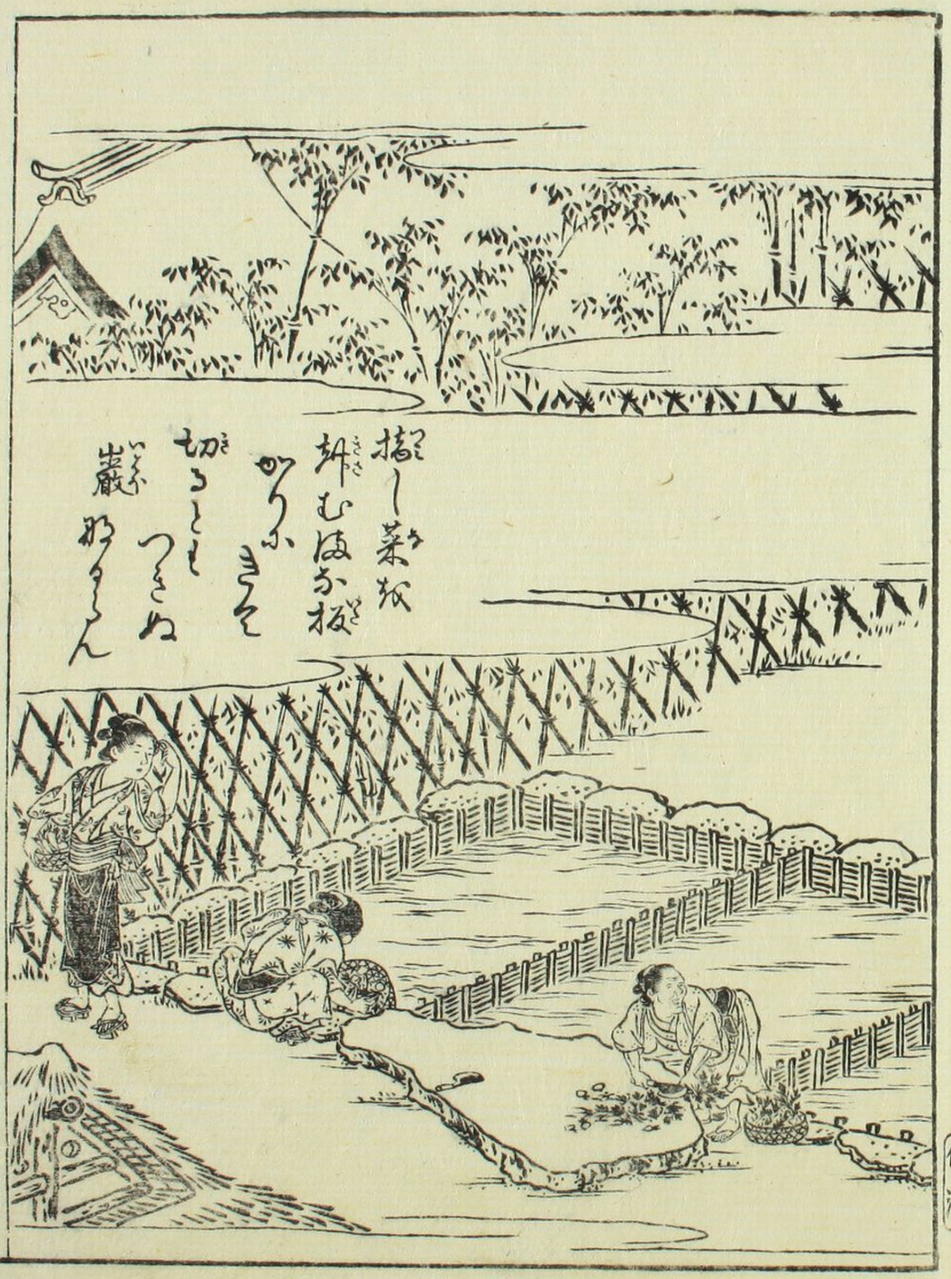


上狛泉橋寺



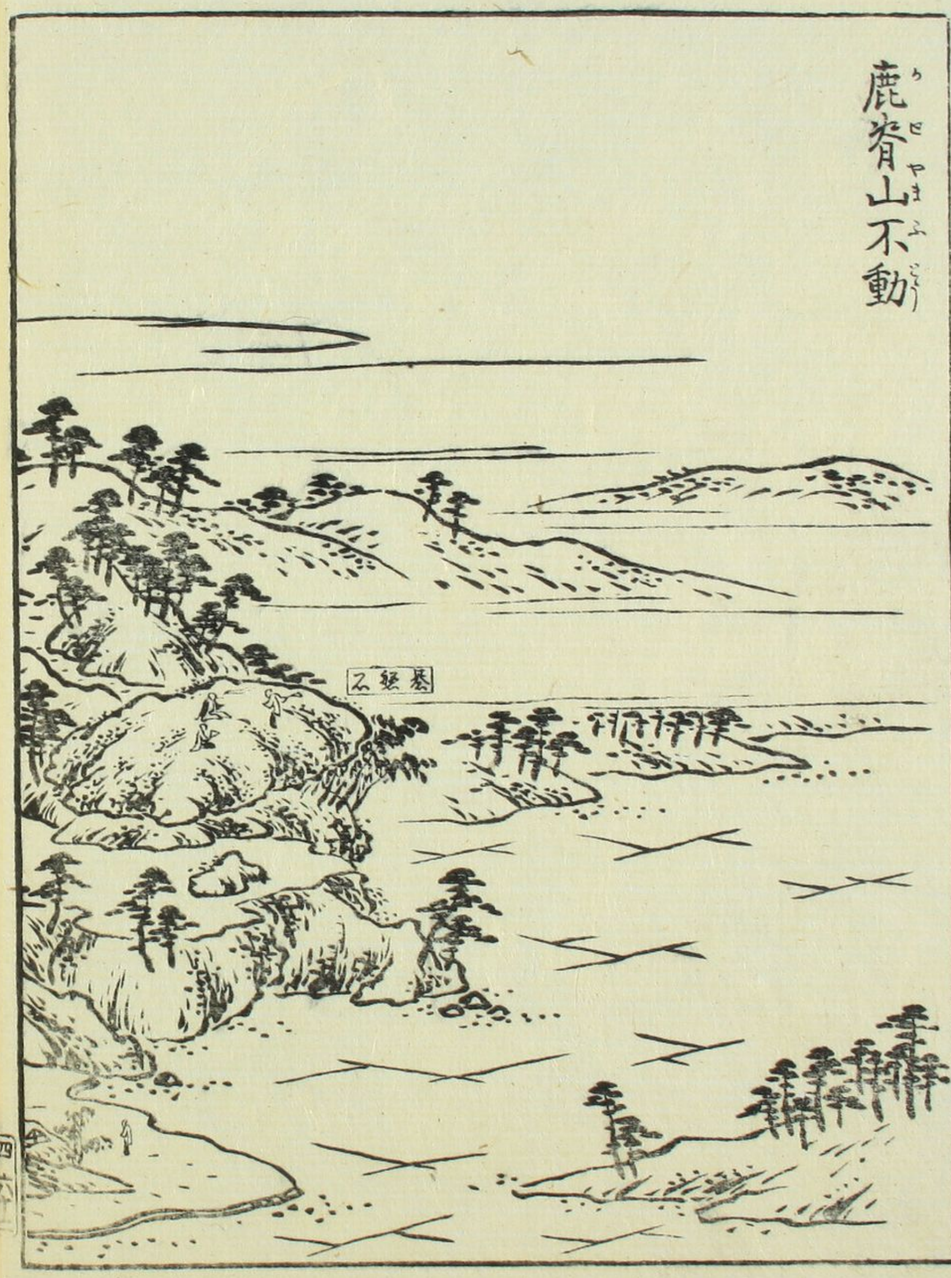
箱根原井平尾村
菜切石
由緒前編ふ
こへくる





掘し菜切
却むはふ板
叩うふきそ
切こしつきぬ
巌ありけん

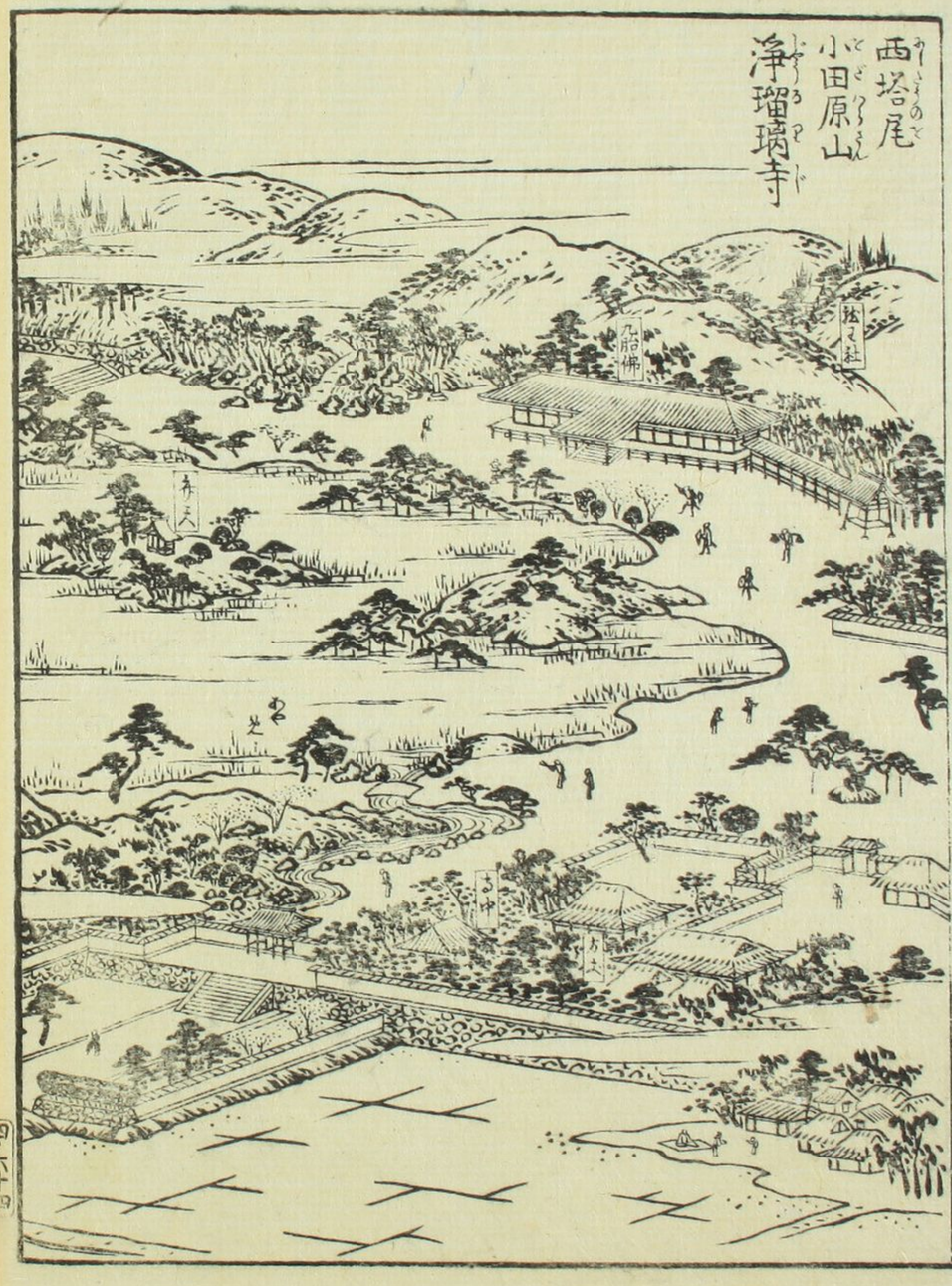

墩物
こまいぬ
山長


鹿背山不動
碁盤石
四六

甕原　本津の坤二十町許ニあり和名抄ニ多郷あり和銅
拾葉紀ニ詳ニ見ヘたり
ニ遷都ありしニ川村の十日町ハ古ノ京ノ地ニ
御霊社　甕原ニの原村ニあり祭ル所ハ土人ハ生土神ト
甕原離宮　春池津ノ波續日本紀曰天平十一年三月甲午　天皇甕原の
離宮ニ行幸ありしニ和銅六年ニ幸し給ひしハ又曰己卯　天皇及び　太上天皇甕原の離宮
卯甕原離宮ニ幸し給ひしハ　太上天皇甕原ニ行幸しあり同七年四月己
甕原　甕原離宮ニ幸し給ひしハ
清見川原　甕原岡崎村ニあり鴨川原ニ流れ入ル
カ茂渡口　甕原ニ流れ入ル川上ニ民家あり茂ノ渡ト云ふ
里ばかり四十町ばかり其ニ堰ありて水を引ク
法華寺野　村の名ニ侍ル鴨の波の名ハ町許ニ民家あり
浄瑠璃寺　法華寺村ニあり本尊ハ阿弥陀佛ノ丈六ニて天永九年ノ作ニ
茅葺佛堂ニ上人開基ニて寺領ハ多田蒲仲源公寄ニ就て精藍ハ故ニ
伽藍開記曰　浄瑠璃寺ハ山別相樂郡本津川の上西ノ方小田ニ在本朝六十四代
図曰　浄瑠璃寺　天永年中多田蒲仲源公寄ニ就て精藍ハ故ニ
僧ノ基手造ノ茅葺佛堂ニ上人開基ニて寺領ハ
頓故納て寺ニ

加茂　里村ニあり大野ニ加茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
岡田山　三代實録曰貞観八年六月十日丙寅　前筑前守従五位下清原
真人真貞ハ山城國岡田ノ銅ヲ以て観音寺　高田等ノ
真人真貞ハ山城國岡田ノ銅ヲ以て観音寺ノ
加茂社　加茂里村ニあり平安城加茂ノ社ノ
風土記曰　可茂ノ社ハ可茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
注典一人　加茂里村ニあり平安城加茂ノ社ノ
風土記曰　可茂ノ社ハ可茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
ありしニ定朝造ル所ノ阿弥陀ノ丈六ノ佛ニ依て
當寺ニ安置ス第七十八主二條天皇震書ノ額あり
巌院ト号ク鎌倉將軍實朝公茶田一千石銅錢一千貫ハ故ノ荘
粮ニ賢ク山中ニ子院若干所あり實ニ一乃大精藍之ニ
年代久遠ニして九軀佛ハ唯九軀ノ弥陀ノ像存ス故ニ庶民
寺號ハ名ク九軀佛ト云ふ
里村ニあり大野ニ加茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
岡田山　三代實録曰貞観八年六月十日丙寅　前筑前守従五位下清原
真人真貞ハ山城國岡田ノ銅ヲ以て観音寺　高田等ノ
注典一人　加茂里村ニあり平安城加茂ノ社ノ
風土記曰　可茂ノ社ハ可茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
ありしニ定朝造ル所ノ阿弥陀ノ丈六ノ佛ニ依て
當寺ニ安置ス第七十八主二條天皇震書ノ額あり
巌院ト号ク鎌倉將軍實朝公茶田一千石銅錢一千貫ハ故ノ荘
粮ニ賢ク山中ニ子院若干所あり實ニ一乃大精藍之ニ
年代久遠ニして九軀佛ハ唯九軀ノ弥陀ノ像存ス故ニ庶民
寺號ハ名ク九軀佛ト云ふ
里村ニあり大野ニ加茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
岡田山　三代實録曰貞観八年六月十日丙寅　前筑前守従五位下清原
真人真貞ハ山城國岡田ノ銅ヲ以て観音寺　高田等ノ
注典一人　加茂里村ニあり平安城加茂ノ社ノ
風土記曰　可茂ノ社ハ可茂ノ氏ノ人ノ名ニ依て加茂ノ里ト名ク
ありしニ定朝造ル所ノ阿弥陀ノ丈六ノ佛ニ依て
當寺ニ安置ス第七十八主二條天皇震書ノ額あり
巌院ト号ク鎌倉將軍實朝公茶田一千石銅錢一千貫ハ故ノ荘
粮ニ賢ク山中ニ子院若干所あり實ニ一乃大精藍之ニ
年代久遠ニして九軀佛ハ唯九軀ノ弥陀ノ像存ス故ニ庶民
寺號ハ名ク九軀佛ト云ふ

東明寺　加茂ノ里ノ南之中ニ多郷あり　北村　舟屋　芋並ニ向の曽之高千穂の峯の天降ニ
岩船寺　加茂ノ里ノ南之中ニ多郷あり　北村　舟屋　芋並ニ向の曽之高千穂の峯の天降ニ
願興寺　加茂ノ里ノ南之中ニ多郷あり　北村　舟屋　芋並ニ向の曽之高千穂の峯の天降ニ

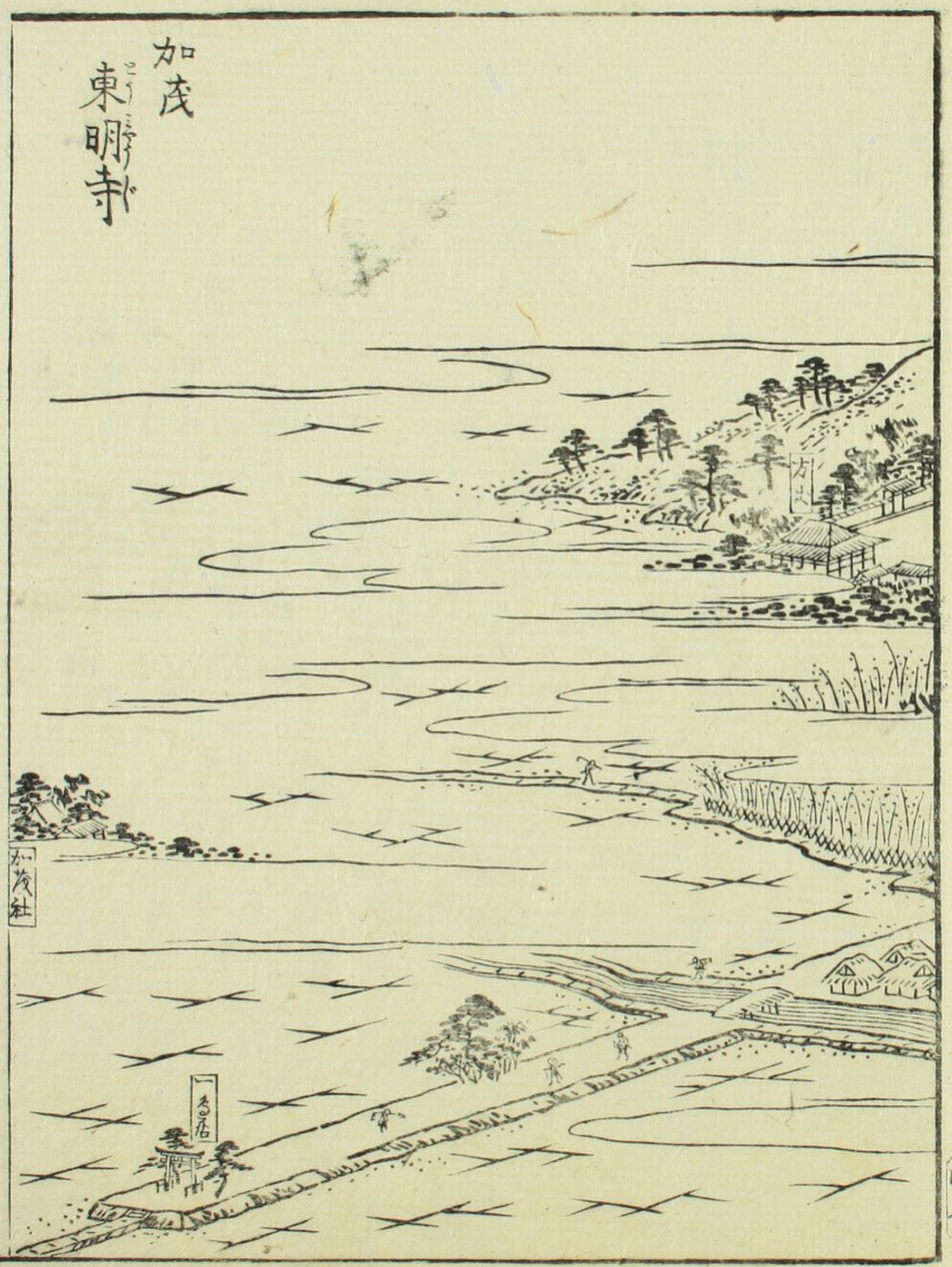


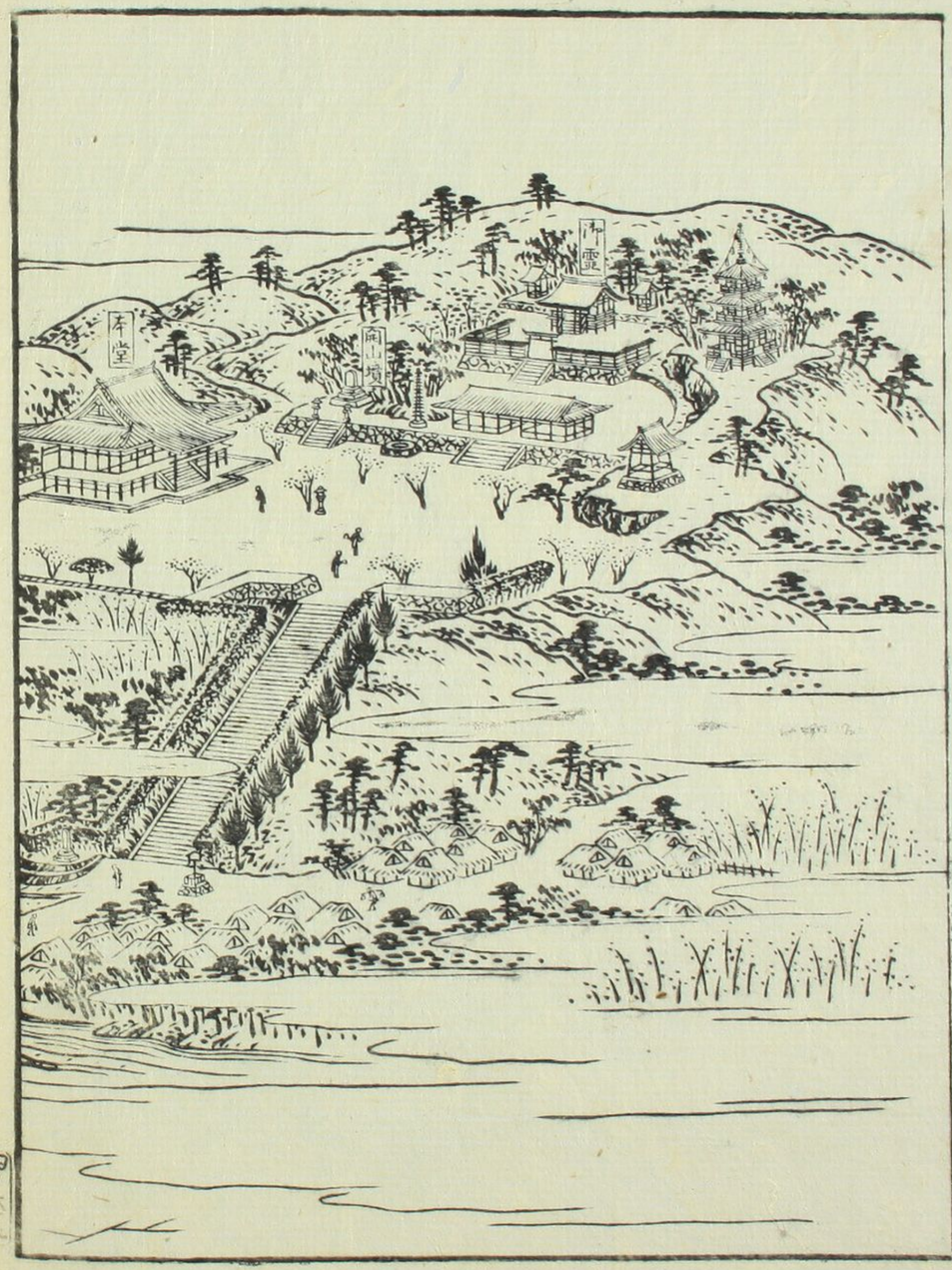
西塔尾
小田原山
浄瑠璃寺



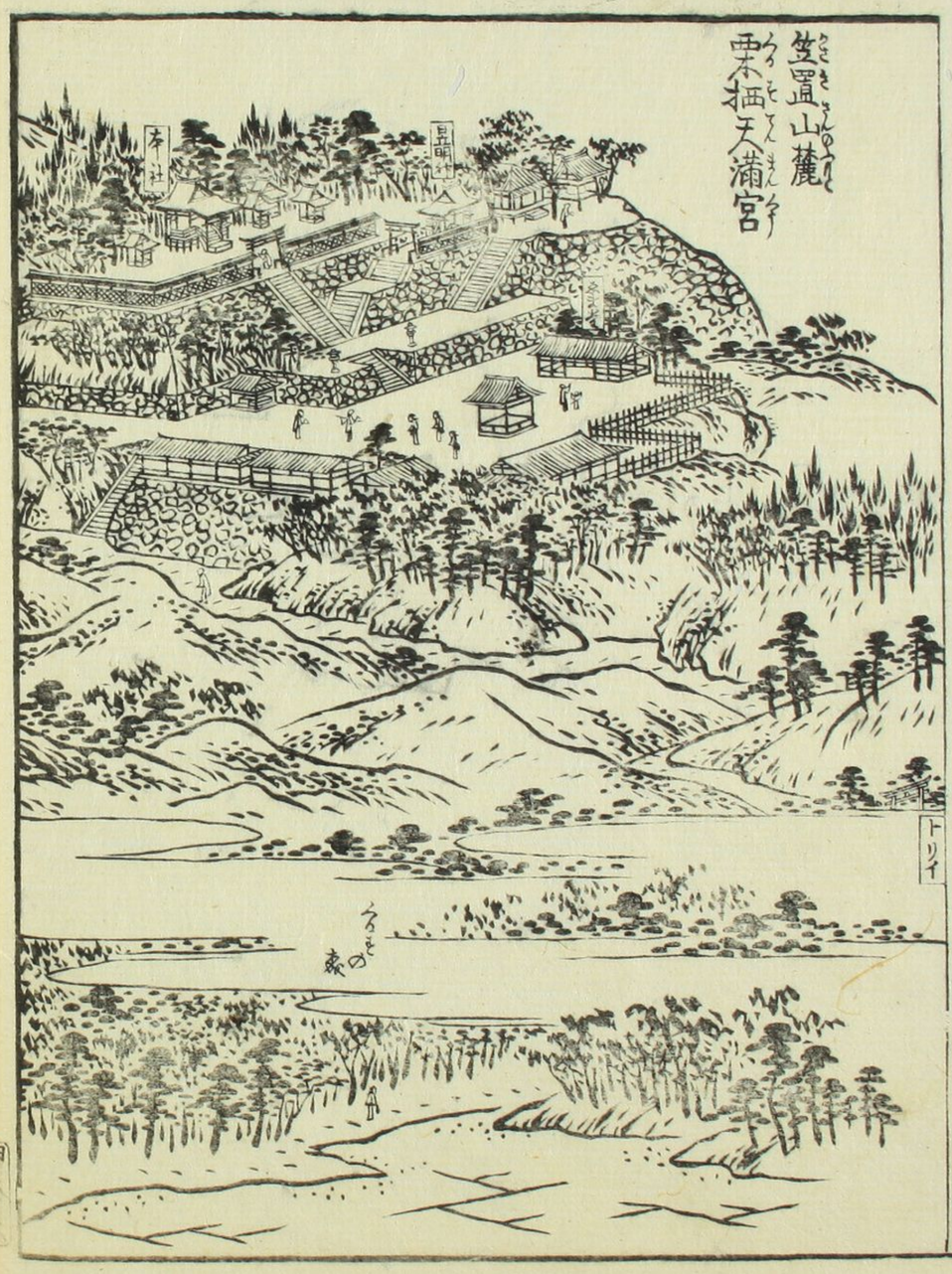
子規
鳴や
又尺の
なや
免草

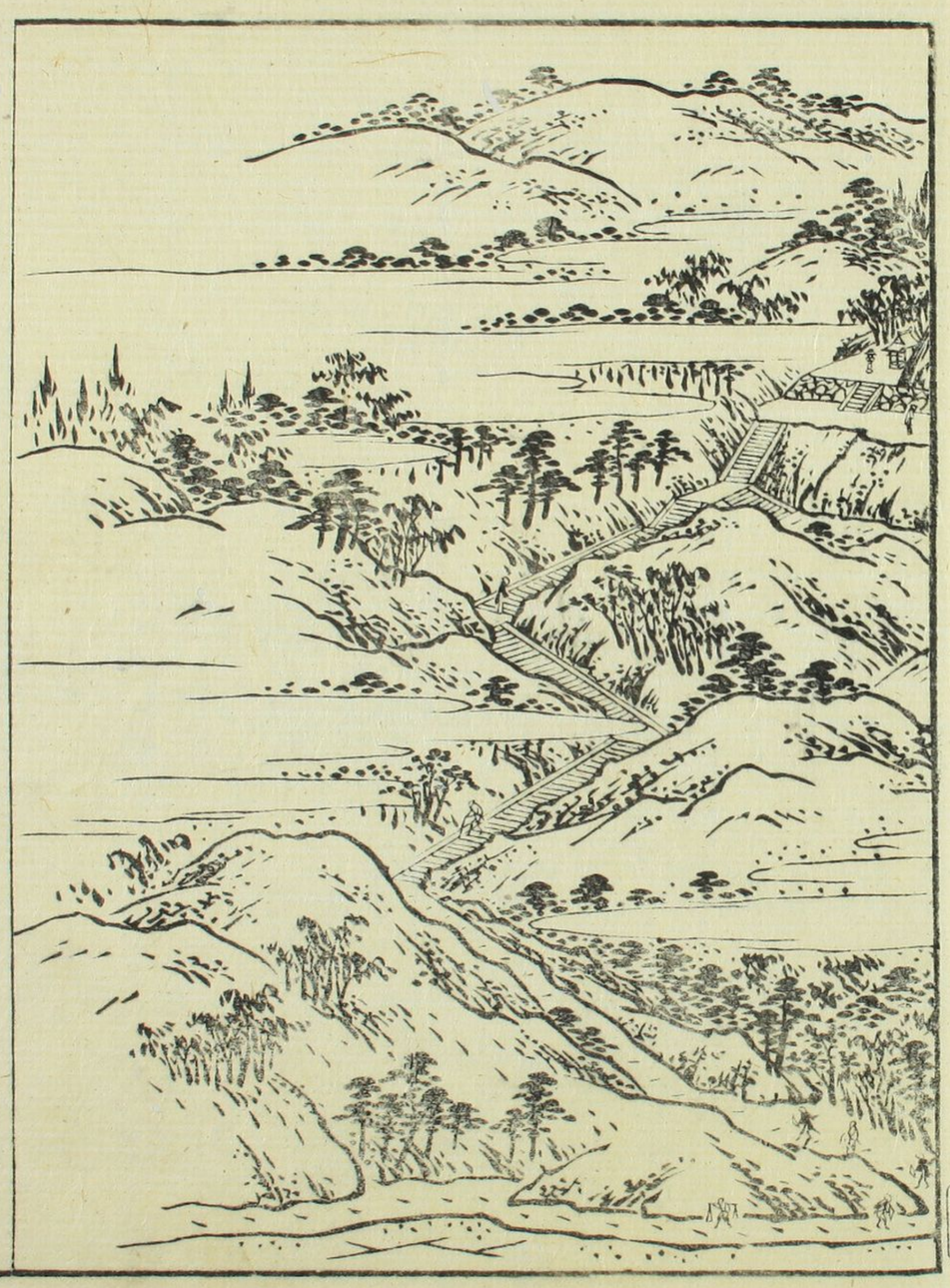
加茂
東明寺





笠置山麓
栗栖天満宮





笠置山名石之細圖

弥勒石　十丈六余
外佛像石　十丈八余





笠置皇居　元弘之年九月後醍醐天皇笠置山ニ幸シ給フ事ハ上ニ見エタリ其所ノ弥勒石ノ傍ニ有リ数所石乃儀ノ如クナル事丸二ノ丸ト号ク南ノ方弥勒石乃嶺ニ至ツテ地形タイラニシテ雙ブ其間ニ溝乃如クナル所アリ増鏡云援硯硎天皇笠置ニ幸シテ云々

うくひすの古巣をかれて谷風ぞ

太平記云笠置乃城ハ東ハ南ハ高ク峨々トシテ人所ノ通フ事ナラズ北ハ一方ノ道ヲ残シテ谷深ク切リ塞ギタリ

の春ぞ通ひける

陶山小見山夜討　笠置ノ城ハ巌石嶮岨トシテ禽獣モ翔リ難ク蘿ヲ攀ヂ葛ヲ伝ヒテ僅ニ一人ノ通路アリ

太平記云其夜ハ九月晦日ノ事ナレバ月モ未明ニ出ヌ

しく吹て面を向べきやうもなし

をひめとうくろふかさねてや

かけてくれぬよりうちくもり

あり扉風吹立ラレテ

うすき雲ふき払ひて人皆いふかひ

山若ニ山石の上ニ成さうくとそ上て

笠乃上ようもろこしたるふ

やそくと皆のがそくり下略

譜笠置乃川上ニ飛鳥浴トテ

後醍醐帝攻若しめ給ふ遺恨ふかう今ニ至ル笠置村ニ云ヒ伝ヘテ宋薪の

交易細ナルヲ云ヒ

有市村乃

川中ニ

稲竈

兒龍

都名所圖會拾遺自叙

白虎通曰京師者何謂也千里之邑歟也蓋決

日月之徑千里云々古昔　桓武帝建基於宇多

邑詔之曰平安城披十二之通門立九重之廣

路街衢洞達擬北緑次而矗ト可謂不親皇居

壮安知　天子尊凡其山川之形勝土地之秀

異甲乎天下矣余幸生皇州閭閻洛陽而荷簞

瓢蓑笠之昊翺翔於東社之丘壑逍遥於西南

之村野蹰巖臨水坐於桑下憩於松陰或訪神

窟或過佛壟無不尋問名勝之地無不搜求古
蹟之幽時々誘引畫工春朝齊隨見即摸之遵
聞即筆之矣嚮著都名所圖會六卷既而所恨
則顯古而晦今者多矣今不昭之則後世益湮
沒而不能知其蹤跡豈不多憾哉由是更補脫
漏重著五卷而續前編之後焉抑自
明王之制封畿建都邑已來到於千載浴于治
國平天下之福委姓於山林娛心於烟霞徘苔
蹊於樓臺採妖艷花香誘蒼浪於漁父遭清朗
明月也近復著大和名所圖會須磨杰石名所
圖會等之二書既而邦畿千里山川之美景豈
可竭筆端哉斑固之答賓戲或曰以無功受祿
述家之譏若好古蹟博雅君子與我同志則所
希享毀也耳

天明六丙午歲七月採筆於永昌堂

平安　秋里舜福　湘夕題

都名所図会拾遺の後ふたつ

の大人乃上を祁[シ]まつりて、
かまひそ。いと奇[あや]しくも世まじきわざにぞありける。
言かまひさらありて。やをら
なりて。そこらくの人のみやこ
物[もの]まで。今はそのよろこひさへして。拾遺百巻をあつ
めよりぬ。よりて物のよく似うまつれる画所の者ども
いま絶[たえ]ぬれど更にもなきを。雪の中小家集
をく抄人のくるまおさ風。夜ルも筆をとり
あつ燈台ルもくれ長うともまでぞ
さまつりといふなもしばそふ所[ルヒ]

おほ人きんふいとくみ
こともはちはりひまるいふことのは
天明七年六月望日
浪速人春朝齋竹原信繁志る

畫工 浪花 春朝齋竹原信繁

本石町十軒店 山崎金兵衛

江都書林 日本橋南三丁目 前川六左衛門

天明七年未秋新板

寺町通五条上ル町 吉野屋爲八梓

皇都書林

名所記類目錄

山城名勝志 全部二十二冊 但十二枚箱入
山城名所誌 全部二十二冊
都名所圖會 新板古板全部二冊
同 拾遺 全部五冊
都細見之圖 懐中折本一冊
都名所之圖 懐中小本一冊
花洛細見圖 折本十五冊 染染亭社紀圖誌
出来秋京雀 全部 七冊

此書ハ山城國中神社佛閣の僞託る類松屋の書歌人英哲等の經歴を載百編の引書故ろく詳記し簡率を旨とし助となるの少なり

此書ハ山城宇治川の邊名所舊跡その由緒故詳しく左右の挑ハ白圖狀圖して七處の地ハ其圖を畫て其虛實を辨ぜ巡覽の便とせるの

此書ハ山城國中神社佛閣名所舊跡を今其風景をうつせるのまゝに寫しるしうるく人て其實體をあらん

此書ハ都名所圖會の卷の内ゟそれぞれの名所を繪を集ハ如て載る所を改めこゝろく風景をうつし名所圖會の續編と思ふ

此書ハ山城一國の山川名勝神社佛閣名所舊跡を洛中洛外の圖ゟ近國の名所迄を載て行程大小の道を分ち其所ゟ所へ何程有ハ記し又名所橋ゟ橋場名産名物名酒名茶屋ゟ出見世迄委敷記し其外役所ゟ役人ゟ町名ゟ名主ゟ年寄ゟ惣代ゟ問屋ゟ問屋場ゟ飛脚ゟ駕籠ゟ辻駕籠ゟ人足ゟ馬ゟ車ゟ船ゟ渡し場ゟ川越ゟ番所ゟ關所ゟ其外旅人の心得に成べき事ゟ悉く記し又名所舊跡ゟ古歌ゟ古事ゟ名物ゟ名産ゟ名酒ゟ名茶ゟ名木ゟ名花ゟ名鳥ゟ名魚ゟ名水ゟ名石ゟ名所ゟ名人ゟ名筆ゟ名墨ゟ名硯ゟ名筆ゟ名紙ゟ名扇ゟ名團扇ゟ名煙草ゟ名煙管ゟ名織物ゟ名染物ゟ名細工物ゟ名菓子ゟ名料理ゟ名酒肴ゟ名茶屋ゟ名遊所ゟ名遊女ゟ名物

京ろん屋　全部　六冊

都なごの免　絖本　二冊

増補新板大日本國花蠻葉記　全部　九一冊　箱入　近刻

雜波丸綱目　全部　七冊

摂州名所記　全部　九冊

泉州志　全部　六冊

大和名所圖會　全部　七冊

東海道名所圖會　全部　六冊　近刻

和泉名所圖會　全部　四冊

東九記行　全部　五冊

河内名所圖會　全部　四冊　近刻

摂津名所圖會　全部　十冊

西國船路記　朋雲船中法令五の條目道の記

雜波なごの免　絖本　大坂市中を定法若干を集記をるく人法令を